

令和 6 年能登半島地震に係る 派遣保健師等活動報告書



令和 6 年 12 月
神奈川県健康医療局
総 務 室
健 康 増 進 課

1	目的	3
2	能登半島地震の概要	3
3	派遣場所の概要	4
4	被災地応援派遣の経過	5
5	保健師等チーム派遣状況	11
6	保健師等チームの活動の概要	12
7	各班の活動報告	14
8	派遣職員への支援体制	58
9	派遣活動における課題	61
10	派遣後の取組み	65
11	活動写真	68

1 目的

令和6年能登半島地震に係る珠洲市での支援活動を振り返り、今後の保健師等の災害時活動の資料とする。

2 能登半島地震の概要

(1) 発生日時 令和6年1月1日（月）16時10分

(2) 震源及び規模（暫定値）

ア 場所：石川県能登地方（北緯37.5度、東経137.3度）

イ 規模：マグニチュード7.6（暫定値）

ウ 震源の深さ：16 km（暫定値）

(3) 各地の震度（震度5強以上）

県名	震度	観測値
石川県	震度7	志賀町、輪島市
	震度6強	七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
	震度6弱	中能登町
	震度5強	金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町
新潟県	震度6弱	長岡市
	震度5強	新潟中央区、新潟南区、新潟西区、新潟西蒲区、三条市、柏崎市、見附市、燕市、糸魚川市、妙高市、上越市、佐渡市、南魚沼市、阿賀町、刈羽村
富山県	震度5強	富山市、高岡市、氷見市、小矢部市、南砺市、射水市、舟橋村
福井県	震度5強	あわら市

(4) 地震活動の状況

○ 1月1日（月）16時6分の最大震度5強の地震以降、7月30日9時現在、震度1以上を観測した地震が1,898回

(5) 津波警報等

○ 1月1日（月）16時10分に発生した石川県能登地方を震源とする地震の津波注意報は、1月2日（火）10時に全て解除

3 派遣場所の概要

石川県珠洲（すず）市

(1) 概要（出典 令和5年度版統計すず）

- 人口 12,947 人
- 世帯数 5,901 世帯
- 年齢(3区分)別人口割合
 - 年少人口 6.7%
 - 生産年齢人口 42.1%
 - 老年人口 51.1%
- 面積 247.20 km²
- 町数 78



(2) 能登半島地震による被害状況

(石川県第54回災害対策本部員会議 令和6年8月21日現在)

- 死者 122 人
- 重症者 47 人
- 軽症者 202 人
- 避難所開設数 16 箇所
- 避難者数 210 人
- 住宅被害（全壊、半壊、一部破損）5,519 棟

4 被災地応援派遣の経過

神奈川県全体としては、横浜市が単独で横浜市チーム、神奈川県としては、県と保健所設置市との「県・保健所設置市合同チーム」と県と県域市町村との「県・県域市町村混合チーム」の2つのチームを派遣した。

月日	連絡ルート	経過
令和6年 1月3日 (水)	<保健師等派遣調整システム> 厚生労働省 →総務室・健康増進課	国事務連絡「令和6年能登半島地震に係る保健師等の応援派遣可否について（照会）」 ○派遣先：石川県能登地方 輪島市、珠洲市、穴水町、能登町等、その他 ○派遣期間：令和6年1月6日（土）～2月29日（木） ○要請チーム数：保健師等チーム14チーム ○業務内容等：避難所における住民の健康支援業務、在宅における要支援者の健康管理業務等
	総務室 →県関係部署 保健所設置市	厚生労働省から派遣可否の照会があった旨を連絡
1月4日 (木) AM	局長打合せ (局長、阿南理事、総務室、医療危機対策本部室、健康増進課)	神奈川県保健医療支援本部を設置 県として保健師等チームを派遣することを決定 保健所設置市と早急にオンライン会議を行うことの指示がある
	県・保健所設置市オンライン会議	横浜市チーム、県・保健所設置市合同チームの計2チームの派遣を回答する 県・保健所設置市合同チームは、川崎市→神奈川県→相模原市→横須賀市→藤沢市→茅ヶ崎市の順番で行う
1月4日 (木) PM	総務室 →局内関係部署 保健福祉事務所・センター	派遣要請についての情報提供と今後の派遣調整について依頼
	統括保健師 →センター所長（保健師）、地域統括保健師	総務室より、前記のメールがされていることを連絡

1月4日 (木) PM	<保健師等派遣調整システム> 健康増進課 →厚生労働省	横浜市チーム、県・保健所設置市合同チームの派遣を回答
	<保健師等派遣調整システム> 厚生労働省 →総務室・健康増進課	国事務連絡「令和6年能登半島地震に係る保健師等の応援派遣調整結果について」 横浜市チームと県・保健所設置市合同チームの計2チームの派遣が決定 派遣先は2チームとも石川県能登町（予定）
	総務室 →保健所設置市	横浜市チームと県・保健所設置市合同チームの計2チームの派遣が決まった旨を連絡
1月5日 (金)	石川県 →健康増進課	派遣概要について資料収受 ○派遣先：石川県珠洲市 ○派遣期間：令和6年1月6日（土）～移動日含む各日の活動時間9：00～17：00（予定） ○集合時間：1月7日（日）9時（または1月6日（土）9時）石川県庁 ○市町の集合場所：珠洲市役所健康推進センター ○活動内容：避難所における住民の健康管理・衛生管理等業務 ※健康増進課から石川県へ電話（派遣先確認）
	県・保健所設置市オンライン会議	○横浜市チーム、県・保健所設置市合同チーム1陣の川崎市に、到着時間や宿の手配状況などの状況を共有 ○給油、引継ぎ、日報、派遣日程等の確認 ○記者発表関係について共有
	記者発表	「令和6年能登半島地震」被災地等への支援について被災地への保健師チームの派遣
	<保健師等派遣調整システム> 厚生労働省 →総務室・健康増進課	国事務連絡「令和6年度能登半島地震に係る保健師等の追加応援派遣について（照会）」 ○派遣先：石川県能登地方 輪島市、珠洲市、穴水町、能登町等、その他 ○派遣期間：令和6年1月9日（火）～2月29日

		(木) ○要請チーム数：保健師等チーム30チーム ○業務内容等：避難所における住民の健康支援業務、在宅における要支援者の健康管理業務等
1月5日 (金)	総務室 →局内関係部署 保健所設置市	追加応援派遣の照会があったが、追加の派遣はしない旨を連絡
	総務室 →保健福祉事務所・センター 局内関係部署	県・保健所設置市合同チームの派遣に係る事務連絡「能登半島地震における保健師派遣の募集について（照会）」 ○派遣先：石川県珠洲市 ○派遣構成：保健師3名、業務調整員1名 ○派遣期間：1月20日（土）～2月6日（火） ○活動内容 ・避難所における住民の健康支援・衛生管理業務 ・在宅における要支援者の健康管理業務等
		県・保健所設置市合同チーム1陣の川崎市チーム出発
1月6日 (土)		横浜市チーム出発
1月14日 (日)	<保健師等派遣調整システム> 厚生労働省 →総務室・健康増進課	国事務連絡「令和6年能登半島地震に係る保健師等の追加応援派遣について（照会）」 ○派遣先：石川県能登地方（輪島市、珠洲市、穴水町、能登町等）、金沢市、その他 ○派遣期間：令和6年1月17日（水）～3月31日（日）までの予定 ○要請チーム数：保健師等チーム30チーム ○活動内容： 【能登地方（輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）】 ・避難所における住民の健康支援・衛生管理業務 ・在宅における要支援者の健康管理業務等 【金沢市以南】 ・避難所における住民の健康支援・衛生管理業務 ・在宅における要支援者の健康管理業務等

1月15日 (月)	局長打合せ (総務室、医療危機対策本部室、健康増進課)	県・県域市町村混合チームの派遣をすることを決定
	総務室・健康増進課 →保健所設置市 保健福祉事務所・センター	厚生労働省から派遣可否の照会があったことと、県・県域市町村混合チームの派遣を回答する旨を連絡
	<保健師等派遣調整システム> 健康増進課 →厚生労働省	県・県域市町村混合チームの派遣を回答
	<保健師等派遣調整システム> 厚生労働省 →総務室・健康増進課	国事務連絡「令和6年能登半島地震に係る保健師等の追加応援派遣調整結果について」 県・県域市町村混合チームの派遣が決定 派遣先は石川県珠洲市
1月16日 (火)	市町村課 →市町村（保健所を設置する市を除く）人事主管課	市町村課より、県健康医療局依頼文「令和6年能登半島地震における被災者支援のための保健師の派遣について（依頼）」を、市町村（保健所を設置する市を除く）人事主管課に送付
	総務室 →保健福祉事務所・センター 局内関係部署 県域市町村	県・県域市町村混合チームの派遣に係る事務連絡「能登半島地震における保健師派遣の追加募集について（照会）」 ○派遣先：石川県珠洲市 ○派遣構成：保健師2名、業務調整員1名、管理栄養士（必須でない） ○派遣期間：1月23日（火）～4月1日（月） ○活動内容 ・避難所における住民の健康支援・衛生管理業務 ・在宅における要支援者の健康管理業務等
1月18日 (木)	保健師等応援派遣における市町村説明会（オンライン）	
1月19日 (金)		神奈川県保健師等チーム出陣式 派遣前オリエンテーション①
1月20日 (土)		県・保健所設置市合同チームの神奈川県チームと県・県域市町村混合チームが出発

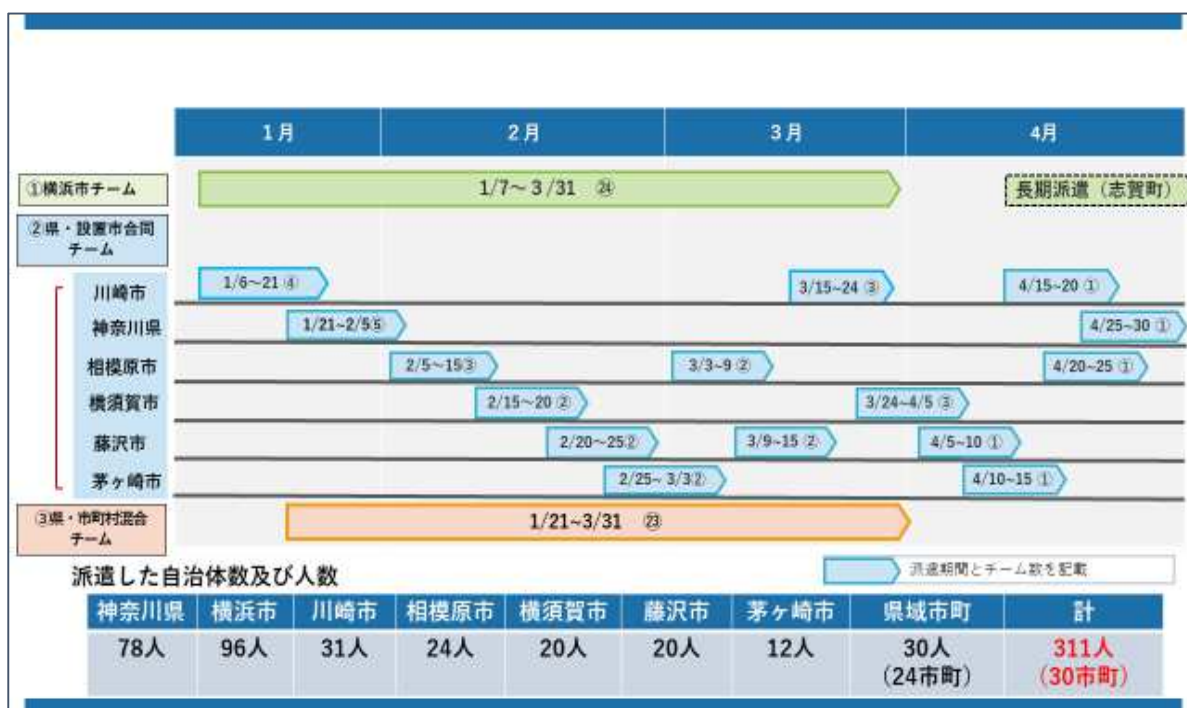
1月24日 (水)		派遣前オリエンテーション②
1月30日 (火)		派遣前オリエンテーション③
2月15日 (木)	<保健師等派遣調整システム> 厚生労働省 →総務室・健康増進課	国事務連絡「令和6年能登半島地震に係る保健師等の追加応援派遣について（照会）」 ○派遣先：石川県能登地方（輪島市、珠洲市、穴水町、能登町等）、金沢市、その他 ○派遣期間：令和6年3月1日（金）～令和6年3月31日（日） ○要請チーム数：36チーム 令和6年1月3日（水）付け及び1月5日（金）付けで照会し、派遣調整結果を通知した現在活動中のチームの活動期間延長を想定
	総務室 →保健所設置市	厚生労働省から追加応援派遣可否の照会があった旨を連絡
2月16日 (金)	県・保健所設置市オンライン会議	横浜市チーム、保健所設置市合同チーム（これまでの県・保健所設置市合同チームから県が抜ける）が3月31日（日）まで延長する旨を回答することが決まる
	<保健師等派遣調整システム> 健康増進課 →厚生労働省	横浜市チーム、保健所設置市合同チームの延長派遣を回答
		派遣前オリエンテーション④
2月20日 (火)	<保健師等派遣調整システム> 厚生労働省 →総務室、健康増進課	国事務連絡「令和6年能登半島地震に係る保健師等の追加応援派遣調整結果について」 横浜市チーム、保健所設置市合同チームの延長が決定
	総務室 →保健所設置市	横浜市チーム、保健所設置市チームの延長が決まった旨を連絡
3月4日 (月)		派遣前オリエンテーション⑤
3月18日 (月)	<保健師等派遣調整システム>	国事務連絡「令和6年能登半島地震に係る保健師等の追加応援派遣について（照会）」 ○派遣期間：令和6年4月1日（月）～4月30日

3月18日 (月)	厚生労働省 →総務室・健康増進課	(火) ○要請チーム数：11チーム ○活動内容 仮設住宅、在宅等の被災者への健康支援、避難 所等の衛生管理の維持等
	局長打合せ (総務室、医療危機対策 本部室、健康増進課)	県・保健所設置市合同チームを延長することを決 定
	県・保健所設置市オンラ イン会議	延長の方向性について検討 県・保健所設置市合同チームが3月31日(日)ま で延長する旨で回答することが決まる
3月19日 (火)	総務室 →保健福祉事務所・ センター 局内関係部署	厚生労働省から派遣可否の照会があり、県・保健 所設置市合同チームの延長派遣を回答する旨を連 絡
	統括保健師 →センター所長(保健 師)、地域統括保健 師	総務室より、前記のメールがされていることを連 絡
3月21日 (木)	<保健師等派遣調整シス テム> 健康増進課 →厚生労働省	県・保健所設置市合同チームの延長派遣を回答
	厚生労働省 →総務室、健康増進課	国事務連絡「令和6年能登半島地震に係る保健師 等の追加応援派遣調整結果について」 県・保健所設置市合同チームの派遣延長が決定
	総務室 →保健所設置市 保健福祉事務所・ センター 局内関係部署	県・保健所設置市チームの派遣延長が決まった旨 を連絡
4月3日 (水)	総務室 →保健福祉事務所・ センター 局内関係部署	県・保健所設置市合同チームの派遣に係る事務連 絡「能登半島地震における保健師派遣の追加募集 について(照会)」 ○派遣先： 石川県珠洲市 ○派遣構成：保健師3名、業務調整員1名

		○派遣期間：4月24日（水）～4月30日（火） ○活動内容：仮設住宅、在宅等の被災者への健康支援、避難所等の衛生管理の維持等
4月17日 （水）		派遣前オリエンテーション⑥
4月24日 （水）		県・保健所設置市合同チームの最終チームとして 神奈川県チーム出発
4月30日 （火）		派遣終了

5 保健師等チーム派遣状況

○各チームの派遣状況



6 保健師等チームの活動の概要

(1) 県・設置市合同チーム（Aチーム）及び県・市町村混合チーム（Bチーム）の活動スケジュール

各チームの支援活動日程（5泊6日）

日程	内容	宿泊地	（参考）後発隊の動き等
1日目	移動（前泊のため・ホテル泊（金沢市内））	ホテル（金沢市内）	—
2日目	現地入り 引継ぎ受け その後活動	珠洲市内施設 A：珠洲ビーチホテル B：珠洲市シルバー人材センター（健康増進センター内）	引継ぎは現地（珠洲ビーチホテル・珠洲市市民ふれあいの里健康増進センター）で実施
3日目	活動		—
4日目	活動		後発1日目（移動・ホテル前泊）
5日目	昼 引継ぎ伝達 ホテル（金沢市内）へ移動	ホテル（金沢市内）	後発2日目（現地入り・引継ぎ）
6日目	移動（活動終了・帰宅）	—	後発3日目 活動

(2) 主な活動内容

ア 県・保健所設置市合同チーム（Aチーム）

※川崎市から引継ぎを受けたため、4陣からスタートした。

保健師	管理栄養士	ロジ
○在宅における要支援者の健康管理業務 ・指定地域の家庭訪問と健康状態の確認（DMATとの訪問含む） ・仮設住宅説明会補助、仮設住宅入居者の訪問 ○避難所における健康支援・健康管理業務 ・避難所巡回 ・他支援チームとのケース調整	○避難所における食事提供状況の把握 ○避難所・地域における栄養面の要配慮者への食事支援及び個別栄養相談 ○自衛隊による炊き出しへの支援 ○特殊栄養食品ステーションの維持管理 ○JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）の業務調整	○車両運行、物資購入・移送業務 ○物品管理、食料等の在庫管理・整理 ○前渡金等管理 ○報告等データ入力業務 ○活動状況記録（写真）

イ 県・市町村混合チーム（Bチーム）

保健師	管理栄養士	ロジ
○石川県庁でのオリエンテーション ○本部保健師班(石川県保健師)の支援 ・珠洲市全住民の被災状況を把握するための台帳作成やデータ入力等の支援 ・オリエンテーション等資料作成 ・避難所での相談記録作成支援 ○DHEATと連携し、ロードマップについての打合せ ○他自治体保健師チームの報告受理 ○避難所の健康課題・要支援者の集計分析 ○kintoneで入力された5つの課題（医療、介護福祉、住宅、生活、その他）の集計整理 ○仮設住宅説明会での要支援者へのヒアリング ○珠洲市及び石川県保健師へ業務の引継ぎ ○神奈川県派遣活動の報告とあいさつ	○避難所における食事提供状況の把握 ○避難所・地域における栄養面の要配慮者への食事支援及び個別栄養相談 ○自衛隊による炊き出しへの支援（献立作成） ○特殊栄養食品ステーションの維持管理 ○JDA-DATの業務調整 ○ロードマップ作成支援 ○「珠洲市避難所お弁当事業」の準備・調整、実施に伴う住民への情報提供 ○石川県主催の連絡会への出席	○車両運行、物資購入・移送業務 ○物品管理、食料等の在庫管理・整理 ○前渡金等管理 ○活動状況記録（写真） ○kintone入力マニュアルの作成・改訂 ○報告等データ入力業務 ○パソコン・家庭訪問調査票の受取・返却等管理 ○kintone入力マニュアル改定作業及び各保健師チームへ入力方法の説明 ○kintoneで入力された5つの課題（医療、介護福祉、住宅、生活、その他）の集計整理 ○派遣終了に向けての物品整理

7 各班の活動報告

＜Aチーム1陣＞※川崎市から引継ぎを受けたため、4陣からスタートしたが、神奈川県としては1陣と表記している。

項目	内容
活動期間	令和6年1月20日（土）～1月25日（木） ※現地活動：1月21日（日）～1月24日（水）
活動の内容	神奈川県の1陣目として支援用品・生活用品を積んだキャンピングカーを県庁から現地まで乗車し持ち込み。 金沢市内でレンタカーを借り、生活用品を買い出しし、珠洲市に持ち込み。 家庭訪問等により住民個々の健康状態の把握と継続支援要否判断。 珠洲市の体制整備に向けてBチームへ情報提供（共有）。
班員の役割分担	運転はロジ。日誌やリーダー等は日々可能な職員が対応。 訪問等は初日を除いて2人ずつに分かれて実施。 DMATと訪問も行った。
活動を通した課題	訪問先で課題を見つけ継続支援が必要と判断した後の引継ぎ方法やフォロー体制が不明だった。 朝夕のカンファレンス場や業務をする活動スペースが無かった。
感想	【リーダー】 神奈川初陣で被災状況把握等情報収集の役割もあり被災地経験者が集まっていたのは心強かった。関連死を防ぐための個別支援も聞き込まないと課題を把握できないと感じた。現地は、マネジメント機能が見えにくかった。 【班員①】 今回の派遣は、初日の朝5時に暗い雨の中、運転するロジさんとお互い緊張しながら金沢市内から珠洲市に向けて行ったことが印象的でした。他は、食糧購入や移動途中の「穴水道の駅」トイレ休憩の確保等ありました。 【班員②】 地理的な条件等が支援の入り方や復興状況に影響することを体感する派遣だった。平時から地域に根付いた活動をすることが防災時にいかに大切かを実感した。医療との連携、支援チームの中のDHEATの役割等々、勉強になった。

	【班員③】 現地の方は県外の職員に対して気丈に接していただきましたが、時折今後を憂いたり、涙を見せる場面がありました。一方「周囲の人も大変だから」と本音を同じ被災者には見せないように気遣いをしている様子も垣間見られ、県外の見知らぬ支援者にしかできない対応が存在する事を知りました。
--	---

< Aチーム2陣 >

項目	内容
活動期間	令和6年1月23日（火）～1月28日（日） ※現地活動：1月24日（水）～1月27日（土）
活動の内容	全戸訪問による住民の生活・健康状態の確認・支援
班員の役割分担	3班に分かれ、同様に応援に入っていたDMATとともに家庭訪問を行いました。DMATには医療的な視点（内服状況や体調等）、保健師は生活全体を見る視点（家族状況や衣食住等）と他職種と役割分担・連携をしながら活動しました。
活動を通じた課題	受援側も支援側も体制等日々変化していく中で、その流れについていくのがやっとでした。個々の保健師が日々の業務の中で「大局を見極めて臨機応変に対応する力」を養っていくことは課題であり重要と考えます。
感想	【リーダー】 「被災時は自分が最大限動く」ことばかり考えていて、「支援を最大限に活用する」という視点は抜け落ちていました。何から準備を始めればいいのか分からないことばかりですが一歩ずつ進めていきたいと思っています。 【班員①】 水と住居が健康に影響する状況を目の当たりにしました。保健師とDMATの活動体制、傾いた家屋に入らざるを得ない状況、吹雪く北陸での訪問。あの時のあの判断は適切だったのか、受援側だったら何をしたのか、今も考え続けています。 【班員②】 神奈川県が被災し住民の生活や健康状態を把握する際、珠洲市とは地域の特性が異なるので、同様の方法では難

	しいと感じました。神奈川県に適した方法の検討や受援を意識した地域の情報整理等、備えていきたいです。
--	---

<Aチーム3陣>

項目	内容
活動期間	令和6年1月26日（金）～1月31日（水） ※現地活動：1月27日（土）～1月30日（火）
活動の内容	家庭訪問（安否確認、状況調査、健康相談等） 担当地区：若山地区 三崎地区 宝立地区 訪問件数：対面21件、不在23件 区長等からの情報収集98件 合計142件
班員の役割分担	【リーダー】ミーティング参加、神奈川県への報告等 【班員①】（保健師）訪問集計、実績入力等 【班員②】（ロジ）車の運転、前渡金管理等
活動を通じた課題	・訪問調査の内容が細かく、状況が刻々と変化する中でインフラの状況などがどこまで必要なのか疑問に感じた。 ・訪問先で家族全員の生年月日を聞いたが、住基の活用ができれば手間も省け、被災者の負担も減らせたと思う。 ・訪問実績の集計方法が複雑で難しかった。 ・訪問活動期間が正味3日間と短く、気づいた点の共有や改善を行う余裕がなかった。 ・引継ぎ書の内容が非常に多くなっていたため、優先順位の高い内容に絞ってワンペーパーにまとめて引継いだ。
感想	【リーダー】 家庭訪問では区長の協力が欠かせなかった。都会が被災地となった場合にはこうはいかないと思う（というか、全戸訪問などできないだろう）。被災地派遣は5回目だが、宿泊先が断水していたのは初めてである。断水中の生活を体験し、被災者の苦労の一端を知った。 【班員①】 互助が生きている人口減少地域の暮らしを目の当たりにした。被災した市町村を支援する県の役割の重大さを実感し、受援力はマネジメント力だと痛感。活動目的を明確にし、人・モノ・金を動かす力を発揮できる人材の育成が必須だ。 【班員②】

	発災後 1 か月弱の被災地で感じた共通点は、①被災された方々は声高には語らないこと、②被災地に八面六臂なスーパーマンは出現しないこと。現地で出会った方々が<不運だったけれど不幸ではない>と思えるときまで、私に何ができるのかを考えたい。
--	--

<Aチーム4陣>

項目	内容
活動期間	令和 6 年 1 月 29 日（月）～2 月 3 日（土） ※現地活動：1 月 30 日（火）～2 月 2 日（金）
活動の内容	・家庭訪問（安否確認、状況調査、健康相談等） 担当地区：宝立地区
班員の役割分担	【ロジ】車運転、前渡金管理、活動状況記録（写真） 【保健師】家庭訪問、集計・実績入力、神奈川県へ連絡 【管理栄養士】現地栄養士チームとして活動 全員で、報告書作成
活動を通じた課題	・被害の大きかった地区の家庭訪問であったので、明細地図ひとつでの訪問は、倒壊家屋が多く、一致が困難であった。 ・訪問先で家族構成を一から聞き、様々な状況を聞き、さらに近隣の状況も聞くのは、お互いに大変であった。 ・朝と夕方にミーティングがあり、夕方ミーティング前に集計しなければいけないので、活動時間が短くなった。 ・栄養士チームは、他自治体各 1 名の栄養士なので、パソコン環境がそれぞれで、データの共有・引継ぎが難しかった。 ・スーパーは開店しており、総務室の物品も活用させてもらったので、職員の生活に問題はなかった。
感想	【リーダー】 活動内容や活動ルール等、しっかり引継いでいくことが重要と感じる。メンバーが率先して動いてくれたり、B チームも一緒に協力し合ったりしたので、現地活動も現地生活も、毎日元気にやれた。 【班員①】 災害派遣は初めてで、被災者を取りまく状況を現地にて直接お伺いし、被災者から教わる事が多かった。改めて平

	時から災害を想定した体制や対応を具体的に考えておくことが大切だと感じた。 【班員②】 珠洲市に派遣される1人目の管理栄養士として、県本部とリーダーと調整し、現地の栄養士チームで活動した。2～3自治体の管理栄養士が集まっており、初めての場所・仲間でも臨機応変に進んでいく活動は、行政栄養士の力を感じた。 【班員③】 今回の派遣活動ではロジ担当として保健師、管理栄養士の活動状況記録(画像)及び被災地への安全運転による移動を心がけて活動した。活動期間が移動日も含めて短期間(6日)であったこと、活動チームのメンバーと良好な関係を築けたことがとても良かった。ぜひまた派遣活動に参加したい。
--	--

<Aチーム5陣>

項目	内容
活動期間	令和6年2月1日(木)～2月6日(火) ※現地活動：2月2日(金)～2月5日(月)
活動の内容	①自宅避難及び避難所における住民の生存確認含む健康管理支援業務(咳嗽及び痰症状のある感染症疑い患者対応・日赤隊等関係団体の処方依頼などの対応含む) ②全体ミーティング、保健師ミーティング出席 ③そのほか、健康管理支援・生存確認等の情報確認、情報入力作業(Bチーム)支援業務
班員の役割分担	リーダー：①、② 班員(PHN)：①、③ 班員(ロジ)：①に係る移動時運転業務・記録作成、③のデータ入力業務支援
活動を通した課題	<u>情報の一元化・保健活動の継続性への課題</u> 活動期間が短いなか、避難所を網羅的に巡回して得た、健康管理等情報は膨大であった。しかし、整理・分析できる体制の構築が不十分であり、また、情報収集から課題解決・仕組みを構築するという保健活動本来の流れとなるよう管理する体制も不十分であった。そのため、支援対象

	者を見つけた順に、単発に対応する形となってしまう、継続的支援が必要な対象者の選定や継続的な支援依頼等の引き継ぎなどに課題が残った。 <u>多職種による役割分担・調整への課題</u> 役割・機能が異なる多くの職種の支援チームが被災地で活動するなかで、個人への支援内容の決定は、各チームに任されている状況であった。そのため、医療・福祉サービスの提供に偏りが生じていた。情報の一元化によるリアルタイムでの情報共有・支援方針の決定ができる仕組みの構築とともに、(被災自治体に負担なく)団体毎・職種毎の役割分担の明確化・調整を本部等が円滑にできるような後方支援の在り方については、課題が残った。
感想	【リーダー】 被災直後から、今後の地域の健康課題となりうることや必要な社会資源を創造し、予防的な活動を展開できるのが、「保健師である」ということを、多くの職種・団体と活動するなかで、改めて痛感した。 【班員①】 テレビで震災の様子を見た珠洲市への派遣。壊れた街、散らばった住民、それでも少しずつ復興に向かっていて、自分が今できることをしようと。住民コミュニティ、支援者の協働・・・自分も、サポートあつての活動に有難さを感じる。 【班員②】 ロジの1日等については、保健師さんの訪問先活動写真は、被災者の方の顔を映さないよう撮影するのが困難でした。また、報告書の作成が、Wi-Fiの都合により、宿泊先で作業が出来ず、翌朝ミーティングまでに仕上げて報告するのが、忙しかったです。 今後災害発生時に同様の要請があれば、また参加したいと思いました。

< Aチーム最終陣 >

項目	内容
活動期間	令和6年4月24日（水）～4月30日（火） ※現地活動：4月25日（木）～4月30日（火）
活動の内容	○在宅及び仮設住宅フォロー者への家庭訪問。 ○仮設住宅説明会で要フォロー者へのヒアリング。 ○珠洲市及び石川県へ要フォロー者への引継ぎと神奈川県災害派遣のまとめの報告と挨拶。
班員の役割分担	○保健師は在宅及び仮設住宅要フォロー者のこれまでの経過を確認し、家庭訪問を行い記録する。また、仮設住宅説明会で要フォロー者へスクリーニングシートを確認し、入居予定日、家庭訪問日の予約を行う。 ○ロジは移動する際の車の運転や日報及びフォロー者のKintone、スプレッドシートの入力。 ○リーダーは保健師ミーティングでの報告を行う。
活動を通した課題	○避難所の人数は減少しており、通常の日常に少しずつ戻っているが、慢性的な疲労もあり、高血圧等慢性的な疾患のフォローが必要な状況である。 ○仮設住宅など新たな地域での生活を開始する方が多くおり、新たなコミュニティづくりが今後の課題である。
感想	【リーダー】 被災地の方々に訪問し、生活が大変な中で一生懸命生きている姿に感銘しました。また、珠洲市の職員が先を見据えた対応を考えていたことや、石川県の職員が珠洲市を支援する姿は受援を考える上で参考になりました。 【班員①】 最終陣の保健師募集に、何か役立てればと思い希望しました。活動は、自宅や仮設住宅を訪問する健康管理業務で、最終日に要支援者を市へ引継いで終了しました。今回、派遣や受援の多くを学ばせてもらいました。復興を願っています。 【班員②】 仮設住宅の訪問や在宅訪問で住民と関わる中で、発災から3か月程度経過したところで、より精神的に負担を感じている人も多くいることが分かり、改めて保健、医療、福祉の連携の重要性を学びました。少しでも早く、復興す

	ることを願っています。 【班員③】 被災者感情もさまざまある中で、行政に求められる役割とはなにか、その役割を外部支援者としてどう担うべきかを考えるいい機会となりました。また、受援する側の立場では、支援者が活動しやすい仕組みづくりが重要と感じました。
--	---

<Bチーム1陣>

項目	内容
活動期間	令和6年1月20日（土）～1月25日（木） ※現地活動：1月21日（日）～1月24日（水）
活動の内容	追加派遣 B チーム1陣ということで、石川県庁の統括保健師から石川県保健師の本部支援を依頼される。 現地到着後、石川県保健師と話し合い、住民基本台帳のデータが活用できないことから課題となっていた家庭訪問記録を一元化し、全住民の台帳を3月末までに作成することとなった。そのため、石川県保健師、珠洲市保健師、珠洲市社会福祉協議会等と家庭訪問記録の一元化に向けた調整を進め、どのシステムで入力するかや台帳の入力項目等の検討を行い、最終的に kintone システムを活用して全住民の台帳を整備することが決まった。それに伴い、kintone 入力マニュアルを作成した。 また、DHEAT と石川県保健師と連携し、ロードマップについての打合せを定期的に行うよう調整した。
班員の役割分担	1 陣ということで、基本的には保健師とロジと一緒に打ち合わせに出席し、調整を実施した。 ○保健師：家庭訪問記録の一元化への調整と kintone システムを活用した全住民の台帳づくりの調整。DHEAT を巻き込んだロードマップについての打合せの開催。 ○ロジ：キャンピングカーの搬送、レンタカーの借用、DMAT 入力作業の進捗確認、データのトライアル入力、kintone 入力マニュアル作成、日々の報告書作成、石川県に報告等。
活動を通じた課題	①災害時には本部機能が重要であることから、平時から受援体制やマネジメント機能を整えておく必要がある。

	②被災地本部を支援するために DHEAT の役割は重要である。 ③災害時の支援活動を円滑に進めるために、住民基本台帳を基にした台帳（データ）の活用は重要である。
感想	【リーダー】 居室スペースの確保から始まり、チームメンバー全員の協力で、石川県保健師の優先課題であった家庭訪問記録の一元化への調整と全住民の台帳づくりの基盤・運用整備を行うことができた。被災地本部機能の重要性を改めて実感する機会となった。 【班員①】 全国から集結する各チームの動きや刻々と変わる状況を瞬時に見極め、組織が向かうべき方向へ指示を出し、次々に決断を実行していくリーダーシップの手腕を間近で学ぶことができました。貴重な機会を頂けたことに感謝致します。今後の保健師活動の礎として活かしていきたいと思います。 【班員②】 発災後、すぐに国が現地入りして、初動3日間の指示を出すシステムを構築しておくとういと思いました（国主導の指揮体制のマニュアルもあればなおよいです）。DMAT等がすぐに現地入りしていましたが、情報共有や指示がうまくできていなく、本部は混乱していたため、最初に国が指揮をとり指示するとスムーズにいくように思いました。 【班員③】 災害関連でよく「勇気づけられる」という表現を耳にします。今回、知らない土地の被災した環境で、「自分ができること」に淡々と取り組む全国各地から集まっていることを示すビブスの背中は、とても頼もしく、その表現がぴったりだと思いました。

< Bチーム2陣 >

項目	内容
活動期間	令和6年1月23日（火）～1月28日（日） ※現地活動：1月24日（水）～1月27日（土）
活動の内容	1 保健師チーム（石川県保健師）の支援及びDHEATとの連携 ・保健師ミーティングに同席し課題や活動の方向性について整理 ・DHEATや本部支援の他自治体チーム（神戸市、熊本県）と連携し全戸訪問の可視化やロードマップ作成に向けた支援 ・保健師チームのタイムマネジメントの支援 2 システムの確立や運用の支援 ・家庭訪問の情報を一元化及び効率化を図るため、kintoneの運用について整理し、合わせて家庭訪問調査票を作成し他様式類の整理及び修正を行った。 ・kintoneの運用に向けた入力マニュアル作成 ・避難所訪問、家庭訪問実績報告の運用を見直した。紙での報告から、石川県電子申請システムを活用し、他市でも展開可能な報告システムを作成、合わせて入力漏れが無いよう様式を改善。
班員の役割分担	【リーダー】 ・派遣終了まで班員の健康や安全面の管理 ・Aチームとの連携やチーム内のマネジメント ・石川県保健師、DHEAT等他チームとの調整 【班員（保健師）】 ・リーダーのサポート ・オペレーションの検討や様式類の作成 【ロジ】 ・保健師の活動のサポート ・システム設計やマニュアル作り ・Aチームの送迎
活動を通した課題	・紙のデータが多く、複数のチームで把握している情報や活動が重複することもあり、情報が一元化されていなかった。 ・保健医療福祉調整本部の中で、保健師チームやDHEATの

	位置づけが曖昧であった。 ・災害時の本部支援は初めての経験であり、長期的な派遣を見据え、業務や役割を整理するのは難しかった。 ・宿泊と活動場所が同じ建物であったため、休憩時間の確保はしやすかったが、終業時間が遅くなる傾向にあった。
感想	【リーダー】 出発の日に新幹線が止まり京都経由で金沢入り、チームメンバーの交代など、様々なトラブルがありましたが、Aチームと一緒に危機回避しながら無事に派遣が終わりました。本部支援という初めての業務も含め、臨機応変なマネジメントの重要性を改めて学びました。 【班員①】 発災から間がない時期においては、余震や衛生環境など高ストレスの環境下となります。コミュニケーションにより精神面での負荷を軽減したり、前後のチームの連携で日々の改善を共有して衣食住の工夫することにより、身体面の回復を促す重要性を感じました。 【班員②】 本部支援として、調査後の報告に係るルール化、負担軽減のための記載様式簡略化などに携わりました。 職種間における共有の不十分さ、派遣自治体の頻回な出入りにより、情報や方針の煩雑化がみられていましたが、すべてのチーム・自治体において、「珠洲市が抱える思いや方針を第一に尊重して支援にとつとめる」という姿勢が共通していたからこそ、体制構築が十分ではない状況においても多職種で連携して支援をすすめていくことができていたと感じました。

<Bチーム3陣>

項目	内容
活動期間	令和6年1月26日（金）～1月31日（水） ※現地活動：1月27日（土）～1月30日（火）
活動の内容	・朝、夕の全体ミーティングへの参加 ・保健師ミーティングへの参加 ・珠洲市保健活動本部の後方支援の関係機関、DHEAT との打合せ（要支援者把握や管理方法、ロードマップ作成に向

	けた状況確認等) ・在宅避難者の健康調査票のデータ化、要支援者の把握や管理に関する、kintone 活用に向けた、調整とデータ入力のマニュアル作成
班員の役割分担	【保健師】 ・朝、夕の全体ミーティングへの参加 ・保健師ミーティングへの参加 ・在宅避難者の健康調査票のデータ化、要支援者の把握や管理、ロードマップ作成に関する調整 (リーダー保健師：全体ミーティングへの参加、連絡窓口、班員の健康管理) 【ロジ】 ・運転、前渡金管理、写真撮影、総務室との連絡窓口 ・要支援者把握や管理に向けた、データ入力のマニュアル作成と他自治体職員への説明 ・報告書の作成、送付 ・必要時、打合せ等へ参加
活動を通じた課題	・引継ぎの時間については、十分に確保できるような体制が必要。 ・データ入力体制の導入等に関しては、職員により知識に差があるため、支援する体制が必要。 ・派遣チームの入れ替えが多く入力者も変わるため、入力データの共通ルールが、統一化されにくい。 ・ロードマップ作成等に関わるのであれば、事前に被災地域の平時の保健活動の取組みに関する情報収集を十分に把握する必要がある。
感想	【リーダー】 支援期間が短く、時間の制限もあり、支援状況の引継ぎの難しさや重要性を実感しました。被災自治体の思いを確認し、多くの専門職がお互いの役割を理解して活動することの大切さを再確認しました。 【班員①】 災害時の保健活動は、訪問での情報をデータ化し、分析することで二次健康被害を予測予防する保健活動にすることが非常に大事であることを実感しました。 今回の活動は、本市の職員とも共有し、日頃の準備として

	帳票の整理、データ格納場所の検討をするきっかけとなりました。 【班員②】 被災者の心身の健康を思う保健師の熱意や責任感には頭が下がります。帰県直前に石川県庁に寄った際、保健師への謝意を表されました。 現地は余震その他の危険があるため、ロジや送り出す側が保健師の安全に一層配慮できるとよいと思いました。
--	---

<Bチーム4陣>

項目	内容
活動期間	令和6年1月29日（月）～2月3日（土） ※現地活動：1月30日（火）～2月2日（金）
保健師活動の内容	保健師本部（石川県）の支援 全戸台帳及び要支援者台帳のデータ整理・入力
班員の役割分担	・リーダー：（本部支援）支援方法の検討、DMAT ロジ・日赤等他機関との連携調整、保健師巡回に必要な資料の準備、ミーティング運営補助、ロードマップ作成補助 ・サブ保健師：kintone 入力進行管理。自治体ロジへの説明、相談受け（入力における質問、専門用語の読取等） ・ロジ：kintone 入力の責任・調整役。珠洲市・社協との調整、応援自治体への業務説明、パソコン・家庭訪問調査票の受取・返却等管理 活動記録、前渡金管理、車の運転・管理
活動を通じた課題	・入力作業を本格的に開始すると、パソコンと入力する人手の確保を維持できるようにすることに苦慮したが、多くのロジが積極的に手上げしてくれた。 ・重複入力、住民票との突合、記録の読取困難など一つ一つの対応に追われた。
感想	【リーダー】 思い返すと、本部と入力作業をする部屋を往復しながら、あっという間に一日が過ぎていた。部屋で2グループ一緒に過ごす時間が安らぎだった。 【班員①】 急遽内勤業務となり現場に出ることなく過ごしたため、被災者の役に立っているか実感しづらかった。

	たった数日間、水道、トイレ、風呂が使用できない環境であったが、非常に不便であり、そこで生活しなければならない被災者の大変さが身に染みてわかった。 【班員②】 初の災害派遣かつ本部支援チームとなり、戸惑うこともあったが、チーム内外の職員と協働し活動できた。kintone の記録入力及び進捗管理を担当し膨大な情報をまとめて健康課題の把握に繋げていく重要性を実感した。
--	---

<Bチーム5陣>

項目	内容
活動期間	令和6年2月1日（木）～2月6日（火） ※現地活動：2月2日（金）～2月5日（月）
保健師活動の内容	保健師本部（石川県）の支援 全戸台帳及び要支援者台帳のデータ整理・入力
班員の役割分担	・リーダー：（本部支援）支援方法の検討、DMAT ロジ・日赤等他機関との連携調整、保健師巡回に必要な資料の準備、ミーティング運営補助 ・サブ保健師：kintone 入力進行管理。自治体ロジへの説明、相談受け（入力における質問、専門用語の読取等）訪問票の入力・未入力の整理。リーダー業務。 ・ロジ：kintone 入力の責任・調整役。珠洲市・社協との調整、応援自治体への業務説明、パソコン・家庭訪問調査票の受取・返却等管理 活動記録、前渡金管理、車の運転・管理
活動を通した課題	・5陣リーダーを急遽4陣リーダーが4日昼まで継続対応したため、最終日はリーダー不在で2人活動となった。 ・入力作業を進めながら kintone 入力の精度管理することに苦慮した。 ・DHEAT 陣営が替わり、体制が見直され、石川県を支える本部機能を神奈川県は求められていることを確認した。
感想	【リーダー】 2陣続けての活動により、DHEAT 陣営が替わることで体制が大きく変わることを体感した。活動を最終日までできず2人に任せて引上げたことが申し訳なかった。

	【班員①】 今回の派遣では、途中で班の再編や、同班のメンバーがコロナ罹患により、最終的には2人での活動となった。人員の少なさや引継ぎ時間の短さ等から情報共有・連携が十分にできず、手探り部分となってしまうことが多かった。 【班員②】 メンバーの変更で不安も感じましたが、できることをやってこようと覚悟を決めて派遣に臨みました。今回は主に本部の支援を行いました。平時からの受援体制整備や、渦中にいても先々の見通しをもった活動の重要性を感じました。
--	---

<Bチーム6陣>

項目	内容
活動期間	令和6年2月4日（日）～2月9日（金） ※現地活動：2月5日（月）～2月8日（木）
活動の内容	1 石川県保健師の支援（本部保健師班支援） ・本部機能を維持・運営するためのサポート ・他機関・多職種との連携調整 ・保健師巡回に必要な資料作成やツール作成 ・石川県保健師への精神的支援 2 珠洲市住民の避難状態把握のための kintone 入力及びデータ管理 ・珠洲市の目指す kintone を活用した支援体制構築への支援 ・kintone 入力の進捗状況把握 ・珠洲市が入力した基礎情報に加える情報の取捨選択 ・避難所巡回時の紙記録等の整理と電子化 ・電子化した避難所巡回時記録に地区担当自治体自身で入力できるようにフォーム改善、周知、運用支援
班員の役割分担	・リーダー保健師：チームの統括及び連絡調整 主に本部保健師班支援業務 引継ぎ書作成 ・保健師：kintone 入力作業、入力作業の進捗管理 本部保健師班支援業務 各所属自治体への報告・連絡

	リーダー保健師サポート業務 ・事務職：ロジスティックス kintone 入力作業、入力作業の進捗管理 kintone 内アプリ作業用マニュアル作成 本部保健師班支援業務
活動を通した課題	・kintone 入力について、被災地側（受援側）から導入時に目的や目指す結果を支援者側に共有していたとのことだが、正確に引き継がれないまま入力するという作業だけが継続されていた。正確な引継ぎが課題である。 ・適宜、被災地側のニーズとゴールを確認し支援方向と内容を是正していく必要があるが、被災地側自治体への配慮から具体的打合せ等の実施が難しかった。被災地側自治体との連携や意思疎通方法に課題が残った。 ・フェーズが変わっていく中で多職種、多機関、多自治体が短期間の支援で入れ替わるため、情報の引継ぎと共有化、実際の支援とその評価ができず、継続性のある支援に繋がっていないことが課題であった。本件は全体本部幹部も認識されていた課題である。
感想	【リーダー】 本部保健師班支援に携わる中で、県型保健所と所管の市町との普段からの連携や意思疎通等の関係性が災害時支援に直結するということを目の当たりにした。平時より県域保健所として周辺市町村と顔の見える関係性を築き、各市町村の抱える課題や受援時のニーズを共有できるように努めていきたい。 【班員①】 派遣協力により被災地になった際を考え、平時からの「情報収集方法・情報管理方法の想定」「BCP の作成」「県職員との連動」「庁内連携」「関係職種との連携」および「外部支援者との積極的なコミュニケーションと具体的依頼事項の伝達」を意識しておくことが必要と感じました。 【班員②】 今回の派遣において、『被災地側のニーズが何であるのか』フェーズによって変化するニーズを的確に捉えて支援することの大切さを感じました。また、災害応急対応業務を明確にし、派遣職員に何を依頼したいと考えている

	のかが重要であると思いました。現在行っている支援に満足するのではなく、被災地側に負担にならずに希望に沿ったものは何であるかを的確に判断できる力をつけたいと思います。 当市で活かすためにも、平時に準備やイメージをすることが大切であり、研修会においても自身の行動がイメージつきやすいものとしたいと考えています。また、保健師の力量形成・組織体制の構築・自治体独自の保健活動マニュアルの改訂・地域防災計画への位置づけを再度してもらうことへの調整・保健医療活動チームの受援としてBCPの見直しと災害応急対応業務についての検討を行っていききたい。 【班員③】 疲弊する被災自治体の職員を支える本部支援業務を通じて、支援者を支援することの重要性を知った。一方、活動している団体・人数の多さゆえに、県市間などのコミュニケーション不足に直面した場面もあり、円滑な本部運営の難しさも学んだ。
--	--

< Bチーム7陣 >

項目	内容
活動期間	令和6年2月7日（水）～2月12日（月） ※現地活動：2月8日（木）～2月11日（日）
活動の内容	①本部支援業務 主に相談表・家庭訪問調査表のkintone入力関連 ・前陣までの継続支援等での個別相談記録類の入力、kintone入力作業を行う他自治体業務サポート、入力に関するマニュアル等資料の作成 ・今後の方針に関して、石川県保健師チーム、DHEATと相談・調整、議事録作成 ミーティング出席 ②栄養・食生活支援業務 避難所巡回、栄養面の要配慮者の抽出・個別栄養相談、炊き出し献立作成、JDA-DATの活動調整、特殊栄養食品ステーション業務支援
班員の役割分担	【全員】

	・朝、夕の全体ミーティングへの参加 【保健師】 ・保健師ミーティングへの参加 ・石川県、DHEATとの連絡・調整、県への日々活動報告連絡(リーダー) ・前陣までの継続支援等での個別相談記録類の入力 【管理栄養士】 ・栄養・食生活支援業務 【ロジ】 ・運転、前渡金管理、物品管理、総務室との連絡窓口 ・データ入力その他自治体職員への説明、マニュアル作成 ・報告書の作成、送付
活動を通した課題	○引継ぎ資料の作成について kintone 入力に関しては、神奈川県が継続して担当していた作業であり、前陣までの引継ぎに記載されている内容もあったが、入力漏れや確認内容が不確かである事案が発覚した。一連の対応等ややるべき内容を集約し、一目でわかりやすく共有できるようにする工夫が必要。 ○後方支援について 現地では「kintone は神奈川県の担当」という認識があり、集計や内容等の質問があっても、システム等の専門的なことについてはすべてのチームが対応できるとは限らず、後方支援体制がないと難しい。
感想	【リーダー】 現地は多くの支援団体が入っており、かつ本部支援というミッションの中で、何ができるのかを考え、また、現場のニーズに寄り添いながらも先を見据えた活動を行うことの難しさを感じました。チーム全員で課題を共有しながら活動できたことがとても助かりました。 【班員①】 混乱の中で刻々と変化する状況に合わせて柔軟に臨機応変に判断し対応することが求められていました。1つとして同じ災害はありませんが、災害の経験を活かして、想定できることは平時から決めておくことが大切だと感じました。 【班員②】

	現状を把握することだけで精一杯でしたが、報連相、多職種連携の大切さを改めて実感し、今後の業務に活かしていきたいと思いました。4日間の滞在期間は本当に短く、限られた時間の中で「今なにができるのか」を考え、行動を起こすことの大切さを学びました。 【班員③】 被災地派遣を一度体験したいと軽い気持ちで参加したため、何ができるのか不安でしたが、滞在中は頭をフル回転させて今自分ができることは何かを考え、動きました。現地の雰囲気も、考えて行動したことも、人生における貴重な経験となりました。
--	--

<Bチーム8陣>

項目	内容
活動期間	令和6年2月10日（土）～2月15日（木） ※現地活動：2月11日（日）～2月14日（水）
活動の内容	1. 石川県保健師、富山県 DHEAT の支援（本部支援） 2. kintone の入力等 3. 全体ミーティングおよび保健師ミーティングへの参加 4. 他団体、多職種と情報共有 5. 課題のアセスメント 6. 資料整理
班員の役割分担	【ロジ】 1. kintone の入力に関すること。 （1）他団体へ kintone 入力のための操作説明 （2）説明資料の作成 （3）入力とダブルチェック （4）他団体へ kintone 入力作業への協力依頼 （5）kintone データから避難所ごとの要フォロー者数の抽出等 2. レンタカー管理、送迎、買い出し （1）定期的なエンジン始動、記録 （2）栄養士チームの避難所等への送迎 （3）文房具等の消耗品の買い出し 3. 報告物、日報作成

	4. 貴重品、パソコン等の管理 【保健師】 2名で協力して役割を担った。 1. 石川県保健師と富山県 DHEAT の支援 (1) 保健師ミーティングへの参加 (2) 保健師ミーティング議事録作成 (3) 避難所への配布物および掲示チラシ作成 (4) kintone の入力およびダブルチェック (5) 他団体へキントーン入力のための操作説明 (6) 各支援チームの避難所訪問スケジュール管理 【管理栄養士】 1. 栄養士チームとして避難所炊き出し巡回 2. 炊き出しメニューの相談 3. 個別の栄養支援 4. 全体ミーティングにおける「栄養士会」としての活動報告 5. kintone 入力
活動を通した課題	・ 避難所のダウンサイジング ・ 仮設住宅移行時のフォロー者の支援方法 ・ 医療から生活環境調整等へのシフト移行について ・ アルコール等メンタル面でフォローが必要なケース ・ 高齢者のフレイル予防 ・ 珠洲市復興のためのロードマップの作成 ・ 断水が長期化。冬期から夏期へ避難所も長期化の可能性 ・ 避難所の温度湿度等環境整備および管理 ・ kintone 入力状況管理 ・ 各支援団体が把握する要フォロー者情報の管理 ・ 各支援団体の避難所訪問スケジュールの調整
感想	【リーダー】 はじめての被災地支援であったが、班員とともに協力しあうことで、困難な状況でも落ち着いて支援活動ができた。今後は普段から他の市町村保健師や栄養士、事務職とコミュニケーションをとりよい関係を構築しつつ、自身の保健師としてのスキルアップを図って有事に考え行動できる保健師になっていきたい。 【班員①】 発災から1か月半。フレイル予防、心のケア、避難所の環

	境調整等、あちこち保健師を求める声が挙がった。医療優先から予防へ。個の支援から全体を見据えた支援へ。保健師の原点に立ち返った気がした。 【班員②】 各団体や自治体から管理栄養士が集まり、初対面でありながらも一丸となって支援活動をしたことに強い絆を感じました。活動を終えて通常業務に戻りましたが、その気持ちを忘れずにいようと思います。 【班員③】 大規模な災害時のように、刻一刻と業務、人員、目標が変化する環境下では、全体ミーティングや共有ができるシステム等により、各地の状況や今後の目標をこまめに報告し、全体が同じ方向を向けるような環境整備が重要と感じた。
--	---

<Bチーム9陣>

項目	内容
活動期間	令和6年2月13日（火）～2月18日（日） ※現地活動：2月14日（水）～2月17日（土）
活動の内容	① 石川県保健師、富山県 DHEAT の支援（本部支援） ② kintone（家庭訪問実施世帯一覧表）の入力・確認 ③ 避難所アセスメントシートの作成と入力、まとめの作成 ④ 管理栄養士としての活動
班員の役割分担	① 石川県保健師、富山県 DHEAT の支援内容を班長が班員に伝え、役割分担を決定 ② kintone 入力・確認については、班長、班員①、②が担当 ③ 避難所アセスメントシートについては、班長と班員①、②で内容を確認し、班員②がまとめを作成 ④ 班員②が食事など身の回りの必要物品の買い出し、会計管理 ⑤ 班員③管理栄養士としての活動
活動を通した課題	① 避難所アセスメントシート作成が急に始まったので作成内容や還元方法等の検討に時間を要した。 ② ロードマップの作成の必要性があがっているが作成には至っていない状況だった。珠洲市の意向を確認しながら、石川県本部保健師、富山県の DHEAT と共有、検討していく必

	要があった。
感想	【リーダー】 ・グループメンバーが非常に協力的で、チームワーク良く支援することが出来たと感じます。 ・新しく「避難所アセスメント作成」が行われることとなりましたが、スムーズに役割分担が出来、短時間で実施できました。 ・石川県、富山県の DHEAT との連携も話し合いの時間が多く持ったこともあり、業務遂行がスムーズにいくことが出来ました。 ・グループメンバーを含め、県庁からのサポートが大変助かりました。 ・断水の中での活動でした。水の大切さを実感しました。 ・グループメンバー、関係者の皆様、本当にありがとうございました。 【班員①】 ・本部機能の支援に従事させていただき、受援に際し、各支援機関の役割を平時から理解し、その役割を発揮できる体制を構築すること。また、各種帳票類が状況に応じて使用できるようにしておく必要があることを学びました。 ・班員のメンバーが後方支援のある県職員の方で、さらに派遣経験のある方々とチーム構成されたことで、業務をスムーズに遂行することができました。また、安心して支援活動に従事できました。 【班員②】 ・共用フォルダによる活動記録や引継書の情報共有は、事前に状況が把握でき、現地での支援活動に溶け込みやすく有効でした。 ・また、LoGo チャットや毎週の現地・市との ZOOM 会議は、現地と対話できることや、後方支援の本庁の方々が即時に対応いただけることを予め知ることで、派遣前から安心感が得られ、派遣中も孤立せずに安心して支援活動に取り組むことができました。 ・今回は断水した地域で、生活そのものの制約が大きい状況での支援活動でしたが、こうした情報共有により、ロジとしては食事や生活に必要な資材の調達などを円滑に行いやすかったと考えています。 【班員③】 ・災害派遣に初めて従事させて頂きました。 ・報道では得られない情報、被災地、被災者の心、身体、経済の現

	実。沢山の専門チームが参加し、皆の気持ちが同じ方向を向いている姿。その仲間に数日でしたが入れたことに、感謝しかありません。 ・被災直後はまず、「食えること、寝ること、怪我等を治療すること」で助かった命を継続する道を模索、実施、アプローチする期間であるが、被災期間が長期化することであられる、健康二次被害、災害関連死を防ぐための「栄養素の偏り」「排泄」「睡眠の質」「心の安定」「体力、筋力の保持」をどう促していくか、行政がどう整備し、復興に持っていくかが、今向き合える最大の課題だと感じました。 ・当市栄養士チームは近日中に自衛隊に依頼する「炊き出し献立（案）」を作成することにしております。有事の際、少しでも落ち着いた行動が取れるよう、準備していきたいと思います。
--	---

<Bチーム 10 陣>

項目	内容
活動期間	派遣期間：令和6年2月16日(金)～2月21日(水) ※現地活動 2月17日(土)～2月20日(火) ※DMAT ロジチームの撤退が2月20日と決まり、外部支援の縮小を視野にした市の方針や各チーム・保健所長を含め、今後の対応を検討する臨時会議が開催された。DMAT ロジからDHEATへ運営の引継ぎが始まった時期。
活動の内容	・9陣から引き継いだエクセルファイルに避難所の健康課題・要支援者の現状を入力・集計及び分析(案)の作成。(完成・報告は11陣へ引継ぎ) - 避難所の健康課題の把握等、日赤医療チーム等と意見交換。 ・他の派遣チームが珠洲市の被災者情報管理システム(kintone)へ入力する際のサポートとPC管理、追加マニュアルの作成。 ・石川県保健師よりkintoneの継続支援者数の確認があり、入力内容・データの取扱等を過去のBチームの派遣者へ照会。(⇒富山 DHEAT)と確認や過去のチームが作成した紙データとの突き合わせでデータ入力漏れ等が判明、石川県への回答は11陣へ引継ぎ) ・臨時会議に聴講者として参加
班員の役割分担	・石川県保健師との窓口：リーダー

	・ミーティング参加、kintone ・避難所情報入力等：全員 ・ロジ事務：ロジ
活動を通した課題	【情報整理】 現地活動は各陣のフォルダーに格納していたが、kintone は、神奈川県が継続して担当した作業であるため、一連の対応・記録を集約し、いつ、誰が、何を、どうしたのか共有できるように整理されるとよい。 【情報共有】 派遣前から現地の会議等共有の方法（Google スプレッドシート、現地保健師間は LINE で共有された。派遣前にアクセスできると被災地の状況が理解しやすい。） 【県の後方支援】 現地で kintone の改修等依頼があっても、全ての派遣チームでの対応は難しい。システム等専門的なところは、後方支援体制がないと難しい。 【派遣期間】 往復の移動日を含め、実働期間が短かった。現地の生活環境も含めた調整の上と推察するが、あと 1 日～2 日の実働があれば、より効果的な支援ができたのではないかと感じる。 【PC 等の環境整備】 市町の保健師は業務用の PC の持ち出し制限等もあり、新品の PC を派遣用として持参。LG メール等にはアクセスができないため、県と市町のメンバー間でのデータの送受信は、まず、現地で個人の Google アカウントでメール設定を行った。派遣時のデータは県のサーバに保管するため、設定完了後、県は DEEPmail を使用し、ファイル変換・無害化等がその都度必要となった。PC 作業は現地においても不可欠であり、県と市町村の職員を混合で派遣する際には、データ共有や作業等が円滑にできるような対応、PC も含めた環境整備が不可欠。
感想	【リーダー】 東日本大震災以降 13 年ぶりの被災地派遣。チーム間のデータの共有方法、避難所の健康課題の分析では対口支援自治体との調整の必要性など本部の保健師支援の中で、受援体制整備に必要なことを学ぶ貴重な機会になった。 【班員①】 現地本部の後方支援ということで、日赤チームと避難所情報の共有や避難所全体を俯瞰的な視点で分析する等、本部機能や受援について学べることが多く、貴重な経験となった。基礎自治

	体の職員として、万が一の発災の際には、この経験を生かすことができるよう、平時の備えを行っていききたいと思う。 【班員②】 保健センターの環境整備や避難所の情報収集・分析をして全体へ還元するなど経験したことのない業務に最初は戸惑いました。しかし、活動を継続するなかで同行したチームメンバーの方々と議論する中で、私の中での発災時の保健師の視点を深めることができました。災害派遣に参加する機会をいただきありがとうございました。 【班員③】 現地本部の支援として業務内容は流動的であり、急な依頼も多かったが、市町村職員も含めたチームのメンバーが協力的に活動し、リーダーの的確な指示もあって、円滑に業務を遂行することができ、貴重な経験となった。
--	--

<Bチーム 11 陣>

項目	内容
活動期間	令和 6 年 2 月 19 日（月）～2 月 24 日（土） ※現地活動：2 月 20 日（火）～2 月 23 日（金）
活動の内容	富山県 DHEAT と一緒に保健師本部の調整支援を行った。発災後約 2 カ月が経過し、生活の場としての避難所環境を整えていく必要があった。前陣までのチームが作り上げてきた「避難所アセスメントシート」の回収、入力作業とそのシートから課題が見える化し、各保健師チームの避難所訪問や活動に役立てていただける基礎資料を作成した。また、DHEAT 機能も縮小する中で石川県保健師を支える体制の検討を行った。
班員の役割分担	富山県 DHEAT や石川県保健師と定期的に打合せ時間を設けて、各チームの役割を確認し活動を行った。班員の役割は固定せず、それぞれが自らの考えをもち意見を出し合いながらその都度必要だと思われる役割をとった。
活動を通した課題	支援団体も縮小しつつある時期での活動であったため、被災自治体の考えを確認しながら、少し先を見据えて支援体制の構築を検討することが必要であった。
感想	【リーダー】 日頃行っている保健師活動の積み重ねが非常に大切であ

	ると痛感しました。平時から1つ1つの活動に意味づけを行い、周囲の人たちとともに自分たちごととして、災害の受援体制について検討を進めていきたいです。 【班員①】 本部支援の従事をし、多種多様な組織を統括する大変さを実感しました。また平時から災害時を意識し、受援力の強化のため平時から準備をする必要性を強く感じました。今後の業務に活かし、準備を進めていきたいです。 【班員②】 初めての派遣に不安がつきませんでした。不安だらけで派遣前中後を過ごしました。派遣終了し、後日にグループメンバーと集合し振り返りの時間が取れたことで気持ち（不安）の区切りができたように思います。 【班員③】 初めは、本部の後方支援と聞いており何をしたらよいのかがわかりませんでした。LoGo チャットや Zoom 等で事前に情報共有ができ、出発までの不安が少し軽減されたため大変助かりました。また、今回 B チームで活動したことにより、本部の体制や調整の方法などの経験ができ、神奈川県で災害が起きた場合の動き方が少しわかりました。
--	--

< B チーム 12 陣 >

項目	内容
活動期間	令和 6 年 2 月 22 日（木）～ 2 月 27 日（火） ※現地活動：2 月 23 日（金）～ 2 月 26 日（月）
活動の内容	・ kintone 入力・サポート ・ 訪問終了者のファイル保存 ・ 現在訪問の手書き対応ケースと kintone での抽出の対応者リストのすり合わせを行い、不明者について各保健師チームへ依頼を行った。その後回答をもらい手書きの訪問対応者リストと kintone 訪問対象者リストが一致するように各保健師チームへ対応依頼し修正等実施 ・ 訪問から戻ったチームの報告を確認、助言。必要時石川県へ報告し情報共有 ・ 訪問終了者の記録を各地区で作成されたピンクファイ

	ルに記録を閉じる。 ・訪問終了の kintone 入力の確認等 ・全チームの避難所のアセスメントを Google スプレッドにて周知（神奈川県で対応できず、広島市 DHEAT 依頼） と同時に、紙ベースで各保健師チームが入力に戻ってきた際に確認できるように kintone 入力するテーブルへ設置。 ・石川県 DHEAT 撤退後広島市 DHEAT 保健師 1 名に変更になるため神奈川県で、できるサポートについての検討実施 ・個人携帯で、災害対応の他の自治体の LINE でのやり取りとなっていたので、12G の終了間際であったが県が準備していた携帯での LINE 登録を行い、その後の対応が神奈川県の LINE で対応できるように変更した。
班員の役割分担	・ロジ：①kintone 入力②保健師のサポート③毎日の記録④会計⑤運転⑥荷物整理等 ・保健師：①kintone 入力サポート・訪問リストの対応。訪問から帰ってきた保健師の報告への必要時助言と石川県との情報共有及び報告
活動を通した課題	・Google スプレッドが利用できない。 ・個人 LINE で保健師チーム情報を登録していると、保健師同士での情報交換などが各班でとぎれてしまっていた。過去の情報を継続して対応している情報も情報共有が問題であった。 ・各町のパソコンの持ち込みで対応していても県の方のパソコンでワンクッションはさむことが必要であったりすることが時間を要する部分。
感想	【リーダー】 派遣では、保健師チームの報告を受けたりその時に出てきた問題を解決に向けて対応したり、今後の体制の変化に向けてできることは何か。対応が可能か、判断することを求められるなど現場では忙しい中目まぐるしく動いていくことを実感しつつ、災害時初期は、混乱の時期であり、もし自身がそのような立場になった際にどう動けるのか平時の対策や連携体制が重要であるなど感じられました。

	【班員①】 今回初めて派遣活動を経験し、各派遣チームがどのような動きをしているのかがわかり、受援体制構築の大切さ、保健活動以外にも、情報整理・管理の重要性を知ることができました。また、平時から災害時に自分ならどう動くのかを行動レベルで1人1人考えておく必要があると感じました。 【班員②】 被災地での派遣活動を経験して、日々移り変わる災害現場での活動では、ニーズをキャッチできる感度と柔軟に対応できる力が求められるため、日頃から災害を想定した訓練を繰り返し身に付けることが重要であると学びました。 【班員③】 今回、ロジとして派遣活動に参加させていただきました。 現地入り前後に金沢での宿泊があったこともあり、ゆとりを持って活動にのぞむことができました。現地では、共通サーバーを利用して前の派遣グループでの活動状況がわかるようになっていて、何か不明なことがあったときに助かりました。町から派遣の保健師さんたちも各自自治体のパソコンを持参しておられましたが、一緒に検討結果をまとめたりする作業においてはお互いにワンクッション作業が増えてしまうことや、リーダーの作業割振りが大変なことがあったかもしれないと感じました。そのようななかでも、保健師さんたちが協力しあって本部の支援を行っていた姿を近くで見させていただいたことが、私にとっても大きな経験になりました。
--	--

<Bチーム 13 陣>

項目	内容
活動期間	令和6年2月25日（日）～3月1日（金） ※現地活動：2月26日（月）～2月29日（木）
活動の内容	【本部支援】 ミーティング議事録作成、kintone 入力フォロー・入力マニュアル更新、各チームから訪問結果の報告受け、訪問記録フォーマット整理、各チーム情報共有方法の検討 等

	【管理栄養士業務】 避難所の実態把握（個別栄養支援者の抽出）、JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）の活動調整及び準備、特殊栄養食品ステーションの維持・管理、自衛隊による炊き出し支援（献立作成） 等
班員の役割分担	保健師：本部保健師支援、kintone 入力フォロー 管理栄養士：珠洲市管理栄養士の支援 ロジ：kintone 入力フォロー、必要物品管理、神奈川県支援活動記録等の作成
活動を通した課題	・各チームの職員が入れ替わる中での情報共有 ・通常業務の再開等、復興を見据えた支援内容の検討
感想	【リーダー】 変化していく課題やニーズの把握・情報の取り纏め・具体策の検討と実施を、各チームの職員が入れ替わる中で継続していくことの難しさを本部支援という立場で感じた。自組織での受援体制を考える機会となった。 【班員①】 今回の派遣は、本部支援が役割であり、今後の受援を具体的に検討できる貴重な経験となった。今後、市町村保健師の派遣を県保健師と同程度の頻度で調整いただけると有り難い。また、本庁の後方支援には感謝しかない。 【班員②】 私が現地で活動した2月下旬頃、被災地の方々は外部からの支援が段々と縮小していくことへの不安を感じていました。現地のニーズに応じてプッシュ型の支援からプル型の支援に切り替えていくことの難しさを感じました。 【班員③】 所属した保健師チームは、本部機能のバックアップとして活動したが、その中で感じたことは「平時の備え」こそが重要であるということである。状況を想定し、シミュレーションを行い、アップデートしていくことを怠ってはならない。

< Bチーム 14 陣 >

項目	内容
活動期間	令和 6 年 2 月 28 日（水）～ 3 月 4 日（月） ※現地活動： 2 月 29 日（木）～ 3 月 3 日（日）
活動の内容	保健師の本部支援としての具体的な活動内容は、各保健師チームからの活動報告受け、データ入力。ミーティングや会議に参加し議事録作成提出。石川県保健師や DHEAT 保健師と一緒に課題分析や翌日の活動や今後について検討。朝夕の保健師ミーティングの準備、ホワイトボードの作成。会議資料や kintone 手順書の作成と各保健師チームへの入力指導など。 ロジは飲料水や食料の在庫管理、キャンピングカーの走行やガソリンのチェック、保健師とともに資料作成や保健師チームへの kintone 入力のチェックなど。
班員の役割分担	その時々で作業を 4 人で分担して取り組んだ。大まかには保健師とロジで分けたが、ロジには保健師のサポートをいろいろしていただいたり、雪道は保健師が運転したりと、協力し合って業務に当たった。 保健師 3 人：本部（石川県保健師）支援。 ・各保健師チームからの活動報告受け、データ入力。 ・ミーティングや会議に参加し議事録作成提出。 ・課題分析や翌日の活動や今後について検討 ・朝夕の保健師ミーティングの準備、ホワイトボードの作成。会議資料の作成、kintone の入力手順書の作成。 ロジ：保健師の支援 ・各保健師チームへ kintone 入力指導。 ・本部への報告書の作成と報告。食料や水などの在庫状況の確認と報告。会議資料の作成。
活動を通した課題	kintone については、日頃の訪問記録の入力支援、確認、集計だけでなく、要フォロー者の抽出方法についても要望があり対応したが、kintone について不慣れで、マニュアルを見ながらの作業となってしまった。 ・パソコンは 4 人で 3 台を使いまわしたが、人数分あるとよかったと思う。
感想	【リーダー】

	本部保健師、各保健師チームが滞りなく活動できるよう心がけた。支援団体の撤退や保健師支援のシフトチェンジなどフェーズの転換期で、被災自治体が独り立ちできるような体制を整えるための会議が多く、マネジメントの方法について学ぶことができた。チームのリーダーとして大変力不足を痛感したが、メンバーの皆さんに感謝しかありません。 【班員①】 本部支援ということで、被災者の方と直接交流する機会はあまりありませんでしたが、本部に集まる DHEAT や DPAT、DMAT や赤十字、避難所巡回の保健師チーム等、様々なチームや職種とコミュニケーションをとりながら、動きの共有や調整を行うという経験をすることができました。また、自身のグループが活動した際は、被災者の方が避難所から仮設住宅へ移動しはじめたり、新幹線の再開により、これから戻ってこられる方が増えるなど、転換期にあり、刻一刻と状況が変わる中での支援が求められ、大変貴重な経験をすることができました。 【班員②】 発災から 2 か月経とうとしていたが、未だ本部は混乱しており、被災自治体のリアルな行政課題を目の当たりにした。同時に、訓練されたチーム（DHEAT）の段取りや手際の良さを目の当たりにし、平時から災害を想定した訓練や連携をしておく重要性を痛感した。 【班員③】 ・引継ぎ書類や現地写真は、説明会の前に見たかった。 ・現地の物品管理ファイルは別でお願いしたい。物品写真がないのも、使いづらかった。
--	--

< B チーム 15 陣 >

項目	内容
活動期間	令和 6 年 3 月 2 日（土）～ 3 月 7 日（木）

	※現地活動：3月3日（日）～3月6日（水）
活動の内容	○保健師活動チーム本部（石川県保健師）支援 ・各保健師活動チームの報告に同席 ・保健師ミーティング参加と議事録作成 ・各保健師チームの kintone に入力した記録のチェック ・定例ミーティングで保健師活動チームが報告するデータの作成 ・定期相談開始に向けた準備（チラシ、ポスター作製、相談会場の下見等） ・石川県保健師より依頼に対応（随時打合せに同席等） ○栄養士チーム活動 ・栄養・食生活要支援者のリスト及び支援計画作成 ・各保健師チームと個別訪問の調整及び事前打合せ ・栄養・食生活要支援者への個別訪問・栄養相談（避難所や、自宅（地域）へ保健師チームとの同行訪問） ・JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）の活動調整 ・珠洲市の管理栄養士との打合せ ○15 陣メンバーの活動に関する庶務、後方支援等
班員の役割分担	【保健師】 上記、保健師活動チームの支援に加え、 リーダー：班員の体調確認、業務の調整 チーム員：栄養士の個別訪問に同行 【栄養士】 上記、栄養士チームにて各自治体の栄養士と活動 【ロジ】 ・会計 ・食材や公用車も含めた物品管理 ・公用車の運転、保健師活動の補助 ・活動記録の取りまとめ、報告
活動を通した課題	・IT、ICT についての知識の必要性（kintone に関して、助言できるような知識がなかった） ・本部機能の明確化の必要性（本部支援として、石川県保健師の相談に乗る、提案できるスキルの不足を感じた）
感想	【リーダー】 チームメンバーや、保健医療支援本部の皆様、所属の上司や同僚に支えられ、とても貴重な経験をすることができました。

	チームメンバー全員が各自の役割を自覚し、協力して終始笑顔で活動できたことに感謝しています。 【班員①】 本部支援に携わることができ、災害本部全体の動きや連携を学ぶことができ、災害発生時の対応イメージができた。また、本部支援以外にも避難所や自宅避難者の訪問に同行したことで被災した方の話を聞き、被災した方の健康課題と支援者としての支援を肌で感じることができた。 【班員②】 栄養面における要配慮者の抽出や、個別の栄養相談では、保健師チーム等と連携することで円滑に活動を実施することが出来ました。災害時に備え平時から保健師等の多職種と連携を図ることの重要性を改めて感じました。 【班員③】 私はロジ担当として、車両の運転、職員用食糧の在庫管理、アプリ入力支援から報告書作成補助等、臨機応変な対応が求められましたが、貴重な体験となりました。今後、派遣要請があった際は、多くの職員に志願していただきたいと思います。
--	--

<Bチーム 16 陣>

項目	内容
活動期間	令和6年3月5日（火）～3月10日（日） ※現地活動：3月6日（水）～3月9日（土）
活動の内容	本部（石川県保健師チーム）の支援 朝・夕ミーティング参加、記録 保健師チーム活動報告受理 kintone 入力確認、kintone 入力マニュアル改定作業 等
班員の役割分担	リーダー：本部（石川県・珠洲市）との調整、各種記録等 保健師：各種記録、マニュアル作成等 ロジ：日報、支援活動記録書作成、前渡金管理、電子機器管理、物品・食品管理等
活動を通じた課題	保健師活動がプッシュ型からプル型へ移行された時期で、各地区を担当する保健師チームの対応件数報告の集計方法の変更があった。集計が正しくカウントされていない可能性や、kintone への項目ごとの入力が各チームの担当者の解釈で入力されていたため、平準化できていなかった。そのため、

	kintone への入力方法についてマニュアルの改定作業及び各保健師チームへの説明を要した。
感想	【リーダー】 前陣までの派遣された保健師からの情報提供等があり、業務遂行への不安を少しでも解消することができた。また、県の後方支援体制があり、報告・連絡や心配事を相談でき、次陣へつなぐことができた。今回の経験から、現所属の災害関連業務につなげていきたい。 【班員①】 当市が被災した際の市保健師としての活動について具体的にイメージすることができ、現在の課題を知ることができた。また、今回の経験を市内や医師会等の関係機関と共有し、災害時の保健医療活動の体制構築を見直す機会となった。 【班員②】 定例ミーティングのおかげで、現地状況を伺うことができ、持参物や心の準備をすることができた。また、LoGo チャットで県本部と連絡でき、フォローされている安心感があった。宿泊場所が健康増進センターだったこともあり、十分に休息できなかった。活動期間がこれ以上長くなると体力的に厳しい。

<Bチーム 17 陣>

項目	内容
活動期間	令和 6 年 3 月 8 日（金）～3 月 13 日（水） ※現地活動：3 月 9 日（土）～3 月 12 日（火）
活動の内容	珠洲市保健医療福祉調整本部保健師（石川県）の支援 1 派遣終了に向けた業務の整理、引継ぎ、打合せ （１）実施した事務の整理と引継ぎ （２）撤退に向けた物品等の整理、在庫管理 2 地域に出向いている保健師活動の報告を受け、必要な検討を本部保健師と行う
班員の役割分担	上記、活動の内容の 1 （１）保健師、ロジ（２）主にロジ 2 保健師
活動を通じた課題	・本部に市の職員や管轄保健所がない時間が多く地域に根差した情報収集や活動、復興計画がたてにくい。

	・応援に入った関係団体や行政等支援チームから大量な情報を集約するためのシステムが入ったが、セキュリティーを確保した PC などの機器が限られていた。
感想	【リーダー】 市町と県の合同チームで活動したことで、お互いの情報交換ができたこと、本部支援により受援体制や長期に及ぶ被災者の健康支援が必要なことを改めて感じました。 【班員①】 本部支援という支援を受け入れる立場で被災地を経験し、様々な支援チームが様々な思いを抱えて支援にやってくる中で各チームを束ね、1つの組織として意思を統一した活動を調整する難しさを痛感しました。 【班員②】 珠洲市本部支援に携わり、多職種の動きを統括することの重要性を学びました。この経験を災害時保健師活動に活かしていきます。初の災害派遣でしたが、班の皆さんの支えと派遣前後のフォローがあり、安心して臨むことができました。 【班員③】 インフラ復旧状況、本部や他チームの編成が日々変化する中で、自チームのリーダー、メンバー、後方支援との連携が重要だと感じました。 ロジとしては、業務の整理整頓と後陣への引継ぎを常に意識して業務に臨みました。

< Bチーム 18 陣 >

項目	内容
活動期間	令和 6 年 3 月 11 日（月）～ 3 月 16 日（土） ※現地活動：3 月 12 日（火）～ 3 月 15 日（金）
活動の内容	・朝夕保健師ミーティング、ささえ愛センターミーティング、本部会議等の参加。 ・kintone の活用に向けての意見交換。 ・kintone の入力管理および支援 ・kintone マニュアルの改訂および、社協への引継ぎ方法のマニュアル案作成。 ・派遣チーム訪問後のケース報告の同席。

班員の役割分担	【保健師】朝夕保健師ミーティング参加、本部会議参加、現地視察、本部打合せ参加、kintone 管理等 【管理栄養士】栄養士ミーティング、要フォロー者の確認、保健所職員の訪問同行、弁当配布に伴う帳票類の作成、夕方全体ミーティング参加等 【ロジ】ミーティングおよび会議の議事録作成、現地視察運転、物品管理、資機材整理および計数等
活動を通した課題	・活動時間が短い中で、復興に向けて市がどのように動いているのかを把握するのに時間がかかった。 ・引継ぎが重要であるため、引継ぎ準備に十分な時間を取れるよう、活動スケジュールを立てることが必要。
感想	【リーダー】 本部支援として石川県保健師の方々に対して、何をしたら動きやすいか、復興に向けて自分達にできることは何か、を考えながらの活動だった。kintone を活かして、できる事を皆で考えたり、ディスカッションを重ねながら、復興支援に直接関わる経験ができた。また、現地で支援者と寝食を共にすることで、県保健師の活動の中では見せない表情や気苦労があることも知り、この能登半島地震を知る上での大きな要素となった。本部支援を経験し、より受援側の立場を意識するようになった。機会があればDHEAT 研修を受講してみたいと思う。 【班員①】 初めての派遣であったが定例ミーティングや、LoGo チャットの活用等により、連絡・相談・報告を行いやすい環境があり安心感を持ち活動することができた。また、根気強く被災地の方々・支援者と共に復興にあたる石川県保健師の活動を目の当たりにし、平時の保健活動から顔の見える関係づくりなど意識して行動していきたいと感じた。 【班員②】 支援者自身が被災体験をしながらの支援になるので自らの健康を保ち、今何が求められていて必要とされているのか、それに応えられるよう、臨機応変に行動することが活動の基本だと感じた。また、順に引き継ぐので得た情報を整理することの大切さを実感した。

	【班員③】 当班の日程途中から調整員も本部内に在席できる環境となり、被災地の本部の運営に携わることになりました。避難所の応援や神奈川県での支援側の本部運営の経験はありましたが、マクロ視点、ミクロ視点、短期的な視点、長期的な視点と総合的なマネジメントが求められる被災地の本部運営の一端を見ることができたのは非常に貴重な経験となりました。今後、私たちが受援側となった時のことを想定すると、神奈川県が応援に入る際は本部運営を希望していくと有益になると思います。
--	---

<Bチーム 19 陣>

項目	内容
活動期間	令和6年3月14日（木）～3月19日（火） ※現地活動：3月15日（金）～3月18日（月）
活動の内容	①保健師チーム（石川県保健師の支援） ・避難所等訪問チームの報告から、継続が必要なケースの全体像をつかみ、市へ引き継ぐケースの整理。 ・kintone で入力された5つの課題（医療・介護福祉・住宅・生活・その他）の集計 ・継続ケース49名のリスト作成 ・訪問チーム作業マニュアルの修正 ②栄養士チーム（珠洲市管理栄養士の支援） ・JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）の活動調整及び準備。 ・特殊栄養食品ステーションの維持・管理 ・「珠洲市避難所お弁当事業」の開始時期にあたり、アレルギー表示の確認、食中毒予防、過剰摂取を防ぐための啓発資料（ポスター）を作成、避難所へ周知を行った。
班員の役割分担	ロジ：報告書や必要時帳票等作成、kintone 入力支援、物品管理 保健師リーダー：石川県保健師との調整 保健師：Aチームの記録作成支援、石川県の意向に合わせた資料作成 管理栄養士：珠洲市管理栄養士の支援 石川県行政栄養士連絡会の資料作成

活動を通した課題	・新しいフェーズに向けた支援内容の検討 約2週間後（4/1）に本部機能が変更（市に引き継ぐ）になるが、具体的な方針が（定まっているのかも含め）明確ではなく、日々の業務はこなせるが、変更に向けた方針の把握と、Bチームとして担う役割を考えることが難しい。 ・石川県保健師との関係性の構築 石川県保健師は2回交代があり、忙しくされる中、Bチームの支援が意向に沿っているのか確認し、修正していくことが重要。 ・情報共有の仕方・ICT 栄養士チームは他の自治体、支援団体、珠洲市管理栄養士との情報共有が必須。メールでのやり取りになったが、クラウド上のデータ保存ができたとも考えた。
感想	【リーダー】 石川県の意向を確認しながら業務を進めるよう努めた。また、神奈川での受援体制について考える機会となった。本部は、コロナ業務の時と機能が似ており本部機能の重要性を改めて感じた。 力を合わせて支援ができた19陣のメンバー、県庁の支援と所属の支えに感謝申し上げます。 【班員①】 神奈川県からは最後の派遣管理栄養士でした。短い活動期間に、自分に何ができたのかを振り返ると、心苦しい気持ちもあります。 しかし、神奈川県のまた他県のJDA-DATの栄養士が行ってきたこと、つないできたことを引継ぎ、チームとしての活動は、貴重なものでした。それは、先陣で派遣に行かれた方々、バックアップしてくださった方々、現地で出会った方の強い思いや支えがあったからだ感謝しています。 【班員②】 不慣れな用務が多くあったが、LoGoチャットによる手軽な連絡体制が整っていたこともあり、円滑に業務の遂行ができた。また、担当者が頻繁に引き継がれ、様々な団体が参集している中で、派遣者としてのマナーや気遣い等が、心労の多い職員間で余計な不和を生まないためにも重要であると感じた。

	【班員③】 日ごろ行っている多職種とのコミュニケーション、他者に分かりやすい記録の記載、アセスメント力、要点をまとめて報告すること等の大切さを感じ、日々の保健師活動の積み重ねが災害時の活動に活かされることがわかった。
--	--

<Bチーム 20 陣>

項目	内容
活動期間	令和 6 年 3 月 17 日（日）～ 3 月 22 日（金） ※現地活動：3 月 18 日（月）～ 3 月 21 日（木）
活動の内容	○石川県保健師チーム本部支援(珠洲市) 保健師 ・石川県保健師のサポート ・保健師ミーティングへの参加、記録作成 ・保健師チームの訪問記録等の管理(kintone 入力確認も含む) ・一部の DHEAT 業務(避難所巡回シフトのスプレッドシートの管理) など ロジ ・日報、支援活動記録書作成 ・備品管理(買い出しを含む) ・前渡金の管理 ・レンタカー管理 ・珠洲市災害対策本部会議資料作成 ・J-SPEED 報告メールの転送 など
班員の役割分担	・保健師は上記業務を全員実施、報告や相談事項はリーダーに行うようにした。 ・ロジは上記業務を行い、報告や相談事項はリーダーに行うようにした。
活動を通した課題	・地割れや段差など怪我につながるリスクがあることを強く意識する必要がある。 ・現場判断での引継ぎ(行けば分かる、ではない) ・後方支援に専従職員を増員する(保健師)。 ・毎日定例ミーティングを県本部と行い、現場から課題等を発信するなど情報共有を行う仕組みを考える。

	・本部と現場の指示命令系統を明確にする。
感想	【リーダー】 本部支援という、慣れない支援内容だったので、流動的に現場判断で動かなければいけないことが大変であった。支援者がナーバスな状況の中で、必要なことを伝えていくことの難しさを感じた。また、怪我をしてしまったことでチームに迷惑をかけたのを反省したい。 【班員①】 本部での活動から、様々な支援チームの受援の難しさをはじめ、引継ぎの難しさ、チームで動くことの難しさを実感しました。平時にできていないことは、有事にできないことを肝に銘じ、日々の職務にあたりたいと思いました。 【班員②】 今回の派遣を通して、平時からの県と市町村との関係性、指示命令系統や被災自治体が目指すところの明確化、支援自治体交代時の引継ぎ(支援)漏れ、情報(LINE や Google ドライブ等)の管理等、特に受援時の課題について学ぶことができた。 事前に、派遣時の心得(自分の経験のためにいくわけではないことや身だしなみ等)の徹底や、有事の際の派遣元本部の指示命令系統を明確にしておく必要があると思った。 【班員③】 派遣先での短い滞在期間の中で前任から引継いだ支援内容を継続しつつ、不要不急と思われる業務の廃止提案をし、後任へ引継いでいく難しさを体感しました。また、慣れない場所や気候での自己管理の重要性を学びました。

<Bチーム 21 陣>

項目	内容
活動期間	令和6年3月21日(木)～3月25日(月) ※現地活動：3月22日(金)～3月24日(日)
活動の内容	・20 陣より引き継いだ避難所の状況入力 ・珠洲市被災者情報管理システム(kintone)への派遣チームの入力サポート、マニュアルの修正 ・派遣終了に向けて、神奈川県の実施していた業務の引継

	ぎ準備（資料作成、石川県保健師との打ち合わせ）
班員の役割分担	・石川県・能登北部保健センター保健師との窓口：主にリーダー保健師、班員保健師 ・kintone 及び避難所情報入力の支援。入力内容の確認、議事録作成：主に班員保健師、リーダー保健師 ・物品管理、食料などの在庫管理及び整理。派遣終了に向けての物品整理、その他活動環境の整備：ロジ
活動を通した課題	・kintone の改修が望まれる場合でも、派遣チームには対応困難であり、システム改修については県での後方支援が必要。 ・PC 環境が整わない自治体があることを事前に県としても承知し、今後に向け対策を検討する必要がある。県が派遣先で使用できる PC を配備する等配慮が必要。 ・石川県や珠洲市本部の方針、体制、全体の状況などの情報収集、状況把握ができるよう、県本部より随時提供するか、情報にアクセスできるように示していただけるとよい。 ・現地で活動する期間が短かったことと、本部の支援という自分の中でイメージがない部分での活動だったため、現場の状況、チームの役割やチーム内の自分の役割が把握しづらかった。
感想	【リーダー】 ・石川県・能登北部保健センター保健師の支援より、自身の自治体が被災した際の体制、受援体制の整備のことなど考える貴重な体験となった。 ・珠洲市へ引継ぐことを意識し班員と検討する体験ができた。システムをはじめ、派遣終了後も地元自治体が活用できる状態に整えることが大切だと感じた。 【班員①】 自ら考え行動することが重要だと感じた。状況の変化が激しい現地では引継ぎ通りに物事は進まず、急遽、次陣のロジが不在といった状況もあり、「今必要な、自分にできること」を考え行動したが良い経験となった。 【班員②】 保健師支援チームの本部である石川県の後方支援として活動し、本部の動きや、珠洲市に引き継ぐ準備を体験できたことは、小規模自治体として平時の準備の重要性を感じ

	じた。また、高齢化率が高い自治体は、その支援が健康支援から生活支援に変化していくことで、市町村では、生活支援や適切な支援先につなげることも保健師の仕事であることから、協力側もその変化の視点が必要であると感じた。 【班員③】 ・支援を受ける側が方向性を示すことの重要性がわかった。 ・多団体に関わってもらう場合の情報共有の難しさを感じた。 ・避難所や仮設住宅の巡回ではない間接的な被災地支援のあり方や、チームリーダーの調整力の必要性を学ぶことができた。 ・被災側で活動できる保健師が通常よりも少ない場合の対応について、想定しておかなければいけないと感じた。
--	--

< Bチーム 22 陣 >

項目	内容
活動期間	令和 6 年 3 月 23 日（土）～ 3 月 28 日（木） ※現地活動： 3 月 24 日（日）～ 3 月 27 日（水）
活動の内容	・本部の支援 ・保健師チームの活動内容の把握と確認 ・保健師チームのマニュアル作成 ・引継ぎ業務の整理、引継ぎに関する会議
班員の役割分担	・リーダー（ロジ兼務） 避難所スプレッドシートの管理 石川県や神奈川県への業務報告 保健師チームへ活動計画の共有 ロジ業務（食料、前渡金管理・運転・タクシー手配など） ・班員 保健師チームのサポート (kintone の入力確認・活動計画シート作成など) 朝夕ミーティング議事録作成
活動を通した課題	・3月末のBチーム撤退にあたり、珠洲市の業務を引継がれる体制ができていなかった。 ・kintone の入力方法の統一が難しい。保健師チームの人

	員も数日ごとに交代するので、ルールが引き継がれない。 ・スクリーニング票の記載内容と、kintone の入力内容が連動していないことや、要支援者の抽出基準が曖昧だったが、書式の変更は困難とのことだった。
感想	【リーダー】 被災者支援ではなく、本部の後方支援という活動内容であること、被災地派遣は初めての経験にもかかわらず、リーダーという役割、出発前は不安しかなかったが、先陣の報告やアドバイスが本当に心強かった。「百聞は一見に如かず」で、今回の経験により、受援側・支援側の実際を学ぶことができ、今後の活動に生かしたいと思う。 【班員①】 今回の派遣を通して特に、受援体制の重要性を感じた。その備えとして、時期に応じた活動内容と分担、派遣を受ける側の準備等々、もしもの時に極力慌てないための準備が急務だと強く感じている。災害時の保健師活動は、部外からの協力を得ながらも、自分たちが主体的に行動を起こす必要があると思った。 【班員②】 今回 22 陣として、発災後約 3 か月経過した後の派遣だったが、ライフラインの復旧が、生活再建に大きく影響を及ぼしている現状であった。水のない厳しい状況の中でも全国から保健師をはじめとする支援者が多く活動しており、今後自分の地域で起きるかもしれない災害の際の受援体制について考える機会となった。

<Bチーム 23 陣>

項目	内容
活動期間	令和 6 年 3 月 26 日（火）～4 月 1 日（月） ※現地活動：3 月 27 日（水）～3 月 31 日（日）
活動の内容	1 石川県保健師のサポート業務 ① ミーティング出席および議事録作成 ② 仮設住宅訪問記録の確認・整理 ③ 避難所巡回の入力補助等 ④ 活動部屋移動に伴う作業

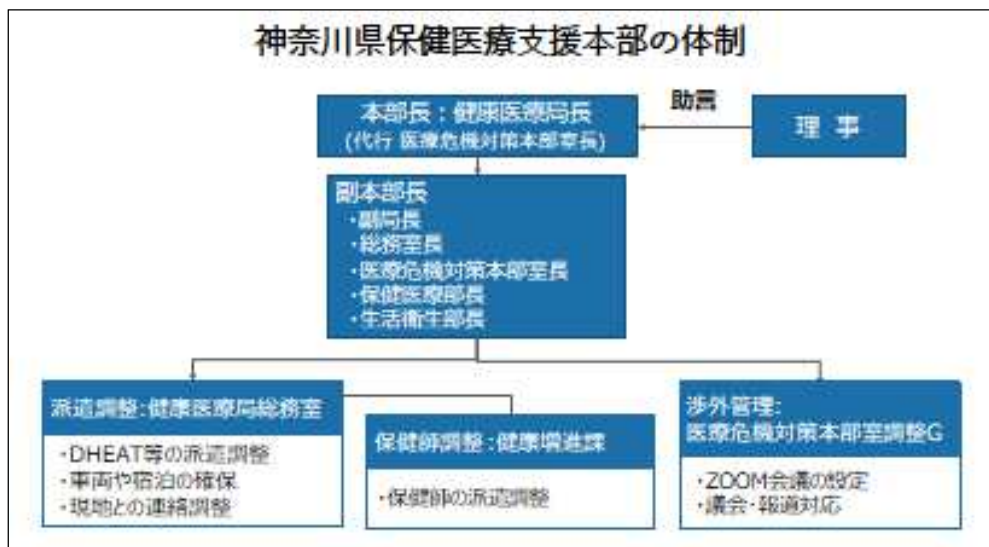
	2 撤収作業 ① 宿泊場所（珠洲市健康増進センター）の物品返却・片付け ② キャンピングカーの県への返却
班員の役割分担	1 保健師チーム（保健師 2、ロジ 1） 上記「活動内容」1 ①～④、2 ① 2 キャンピングカー担当（ロジ 2） 上記「活動内容」1 ①、2 ①②
活動を通した課題	① 石川県および珠洲市の活動や連携、および方向性の全体像がわかるものや説明がなかった。（把握できていれば、災害活動全体の報告書やマニュアル作成に協力できていたかもしれない。） ② 前任のチームから引き継いだ業務については、引継ぎがきちんとされ、支障なく遂行できた。
感想	【リーダー】 発災から約 3 ヶ月経過した時期であり、業務に関して緊迫感は減少し、落ち着いて業務に取り組むことができた。班員のチームワークに助けられ、災害対応は通常以上に役割分担や連携といった「人」の力が大切だと感じた。 【班員①】 3 月末の最終陣として撤収が主業務であったが、数陣前から在庫整理等の準備を進めていたこともあり、円滑に撤収することができた。現地の住民も職員も課題が山積みの中、撤収しなければならないもどかしさを感じた。 【班員②】 在庫の確認など、これまでの積み上げが反映されますが、使用していた物品が県のものか他所のものか分からない場面があり、積み上げの仕方に改善余地を感じました。スプレッドシートや Excel（クロノロ風）など、気軽に上書きと閲覧ができ、管理しやすいデータ形式が良いと思います。 【班員③】 自分に何ができるかという不安もありましたが、災害対応の場では被災自治体の動きや受援準備等の正解が 1 つではなく、今回現地で被災状況や災害対応を間近で見聞きし、活動したことで、学びの多い経験となりました。

	【班員④】 私は、Bチームで珠洲市の保健師チームを統括する本部支援を行いました。発災から約3か月が経とうとしている頃で、市への業務移管や、市の方針に応じた今後の体制構築など、県と市の調整が必要とされていました。県と市での保健師間や、防災主管課も含めた情報共有など平時からの備えが重要であると改めて実感しました。
--	--

8 派遣職員への支援体制

(1) 保健医療支援本部体制

今回の応援派遣では、神奈川県保健医療救護計画に基づいて、1月4日に「神奈川県保健医療支援本部」を立ち上げた。健康医療局長を本部長とし、総務室、健康増進課、医療危機対策本部室（現：健康危機・感染症対策課）で体制を作った。主な役割は、総務室が派遣職員のとりまとめ、健康増進課が派遣する保健師等の活動支援、医療危機対策本部室が会議設定・報道対応等。



(2) オリエンテーション

ア 日時・場所

長期間に渡る派遣だったことから、次の日程で概ね2時間程度で全6回実施した。

場所は、いずれも県庁会議室

第1回：1月19日、第2回：1月24日、第3回：1月30日、
第4回：2月16日、第5回：3月4日、第6回：4月17日

イ 内容

○派遣に係る説明（総務室）

派遣行程、宿泊場所、レンタカー等の移動、駐車場、タクシー、調達物品、前渡金、旅費、時間外、関係先、各自の持ち物、地図、物品管理（kintone）、LoGo チャット（コミュニケーションアプリ）

○被災地における活動について（健康増進課）

派遣先について（珠洲市の概要、派遣先活動拠点、現地の状況）、活動について（活動内容・1日の流れ、記録・報告類、（ロジ）の役割）、支援者としての姿勢・心構え、記録等様式一覧、訪問バックの中身、現地での派遣職員の食事（職員用の参考献立表）等

(3) 定例オンラインミーティング

今回は、県・設置市合同チーム（Aチーム）、県・市町村混合チーム（Bチーム）の複数のチームが活動していたことから、現地の状況把握、本部からの後方支援等のためにも、県対策本部、保健所設置市、県城市町村、各保健福祉事務所・センターが参加し、オンラインで情報共有、課題の整理等を行った。

ア 日時・回数

1月：6回（9日、11日、15日、18日、22日、29日）

2月：4回（8日、15日、21日、29日）

3月：4回（6日、12日、19日、26日）

4月：4回（2日、9日、16日、23日）

5月：1回（7日）

イ 方法

ZOOM

ウ メンバー

神奈川県保健医療支援本部、保健福祉事務所・センター、保健所設置市、市町村

エ 内容

○現在、派遣に行っている自治体からの報告（派遣元自治体、現地派遣者）

- ・ 活動報告、珠洲市までの所要時間の確認、ライフライン状況、生活状況（天候、気温、道路、服装、宿泊環境、食事、トイレ、風呂、歯磨き、店舗開店状況等）
- ・ 引継ぎ日時、場所等の確認
- ・ 質疑応答
- ・ 次回ミーティングの日時確認

(4) フォローアップミーティング

ア 日時・場所

長期間に渡る派遣だったことから、次の日程で全3回実施した。

第1回：3月22日（金）14時から16時30分 県民センター

第2回：4月16日（火）14時から16時30分 万国橋会議センター

第3回：6月26日（水）9時30分から11時30分 県庁会議室

イ 内容

(ア) 支援活動の概要・報告

- a 「令和6年能登半島地震」被災地への保健師チームの派遣について

説明者：神奈川県健康増進課

- b 神奈川県及び県内保健所設置市合同チーム（Aチーム）の活動報告

- c 神奈川県及び県内市町村混合チーム（Bチーム）の活動報告

(イ) 講話「派遣を経験した職員に向けて」

講師：神奈川県医療危機対策本部室 感染症対策担当部長 山崎元靖 氏

(ウ) グループワーク「被災者支援の経験から感じたこと」

- ・ 被災地支援を経験しての感想や学び
- ・ うまくいったこと、うまくいかなかったこと等

(5) LoGoチャットの活用

県が導入している緊急時情報共有ツール LoGo チャットを、応援派遣される県職員だけでなく、県・県城市町混合チームの市町保健師にも派遣前から派遣後までの一定期間、アカウント登録を行った。派遣活動に対する情報共有がスムーズに行えるように体制を整えた。

(6) kintoneによる物品管理

物品の管理にはkintoneアプリを活用した。各チームのログが定期的に物品の在庫確認を実施し、kintoneへ入力することで、現地と総務室の間で在庫状況を共有し、物品の適切な補充に努めた。

(7) 統括保健師の初動・役割

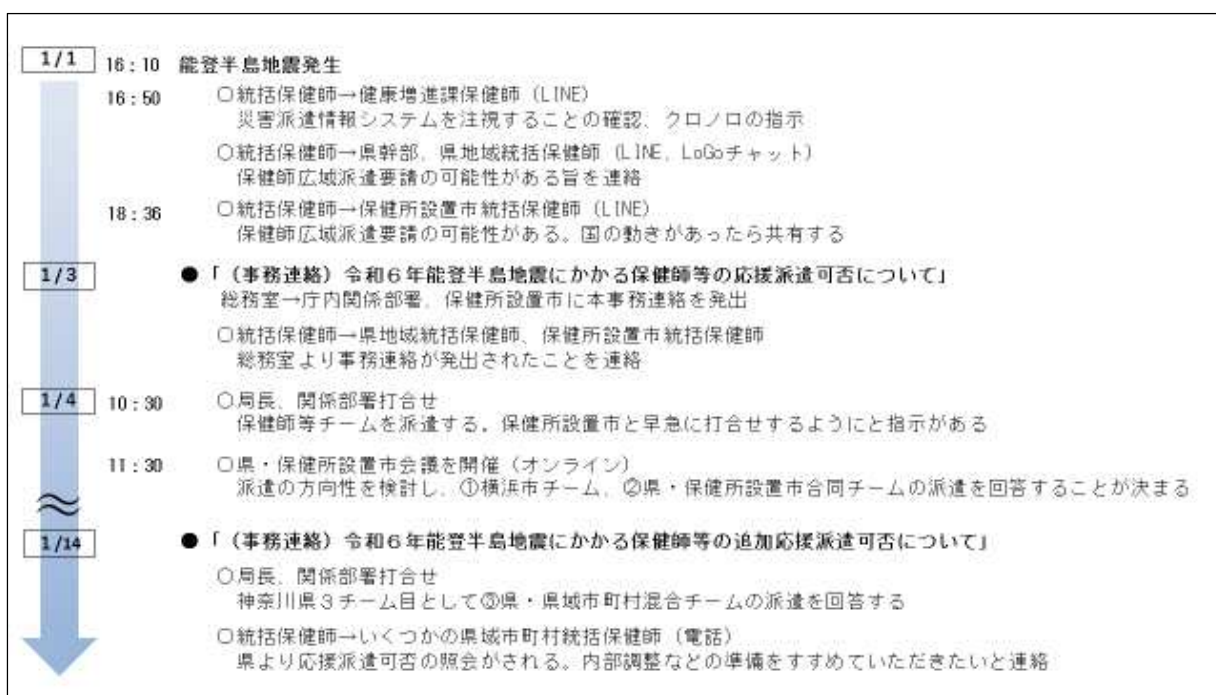
1月1日（月）16時10分に地震が発生し、報道の情報などから、16時50分に健康増進課保健師にLINEで、今後の派遣要請などを意識して災害派遣情報システムを注視することの確認、クロノロの指示をする。

発災数時間後には、健康増進課長、局内幹部、地域統括保健師、また、保健所設置市統括保健師に LINE や県の緊急時情報共有ツール LoGo チャットで、今後、広域応援派遣の可能性があり災害派遣情報システムを確認していることを連絡。

1月4日（木）10時30分に健康医療局長と関係部署で打合せを行い、神奈川県として保健師等チームを派遣する方向性が出され、保健所設置市と早急に打合せが必要と指示があり、保健所設置市統括保健師にその旨を連絡。

11時30分に県・保健所設置市会議をオンラインで開催し、派遣の方向性について検討し、横浜市チーム、県・保健所設置市合同チームの派遣を回答することが決まる。

保健師等の応援派遣に関しては、健康医療局総務室と役割が分担されており、総務室は国通知の共有や保健福祉事務所・センター、市町村への派遣照会などを担当。統括保健師は、県地域統括保健師、市町村統括保健師に総務室からの通知等の発出状況や本部の動き等の情報を適宜共有した。



9 派遣活動における課題

(1) 保健福祉事務所・センター地域統括保健師へのヒアリング結果

<良かった点>

- ・ 所属の中で複数人の保健師を代わる代わる、約2か月に渡り派遣に送り出すことができたのは、所長・副所長や各課長だけでなく、所属内職員の理解と協力があったためである。
- ・ 県だけでなく、県城市町の派遣者も LoGo チャットが使用でき、情報共有に役

立った。

- ・ キャンピングカーは、体調が悪い時等、個別のスペースが確保できて良かった。

<課題>

- ・ 電気や水道が不通の現地に泊まり活動することは、準備や体調管理が大変であった。
- ・ 新任保健師が半数を占める中、課長や班長クラスの保健師が約1週間不在となることで、不在時の準備も行うのは大変であった。
- ・ 保健師や管理栄養士は、災害派遣に関する取組みや研修等を行っているが、ログを担う職員にも災害派遣に対する知識や教育の必要性があるのではないかな。
- ・ 実際現地で活動する期間が短かったため、現場の状況、チームの役割やチーム内の自分の役割が把握しづらかった。
- ・ 雪道の運転は負担が大きかった。

(2) 市町統括保健師等へのヒアリング結果

<良かった点>

- ・ 派遣期間が現地3日間、前後泊を含め計5日間であったことは、職場の業務を調整しやすく、派遣に行きやすかった。
- ・ 定例オンラインミーティングによる情報共有は、派遣先の様子がタイムリーに分かり、派遣のための物品準備や心構えに大変役立った。
- ・ 派遣保健師の健康、安全面について気にしていたが、本人からLINE等を通じて報告もあり、状況の把握はできていた。
- ・ 県の保健師は被災地支援の経験を積んでいるため、県とチームを組んで行けたのがよかった。
- ・ 県支援本部の後方支援の力を感じた。

<課題>

- ・ 保健師が分散配置であり、1人配置の部署が多いなどで派遣者の調整に苦慮した。
- ・ 派遣職員の抜けたところの業務調整は大変だった。
- ・ 若い保健師に経験を積ませたい気持ちと、行った先で動けるのか心配だった。
- ・ 被災地職員派遣をする防災主管課と保健師主管課との調整、派遣に伴う費用等財政担当等他部署との調整もあり、派遣に際しては、様々な職員の協力が不可欠であった。
- ・ Bチームの本部支援機能は、自分たちの市町村が受援となった場合に活かされる経験であるが、反面、避難所等の現場で活躍する保健師活動が見えなかつた。

ったため、被災者の状況を知ることが困難であった。

- ・ 費用負担や時間外の考え方等について、職員課との調整があった。
- ・ 庁外持ち出し可能なパソコンや通信機器（Wi-Fi）の準備が大変だった。
- ・ 職員と市との連絡を個人の LINE で行っていた。外部に持ち出せるパソコンがなく、公的な連絡方法がないことが分かった。
- ・ 対口支援（総務省）と保健師チーム（厚労省）の派遣先を合わせてほしい。

(3) 健康増進課

<良かった点>

- ・ 神奈川県保健医療救護計画に基づき、「県保健医療支援本部」が設置され、健康医療局の指揮命令系統、役割分担が明確化された。
- ・ 「災害時保健師応援派遣マニュアル」において、被災地派遣の調整合制、業務手順、総務室との役割分担が明確化されており、対応しやすかった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対応の経験が、今回の市町と協同した派遣体制に活かされた。
- ・ 県と保健所設置市と派遣の方向性を検討する際に、オンライン会議で迅速に検討することができた。
- ・ 平時より健康増進課、保健福祉事務所・センター、市町村の統括保健師と連携をしていたことで、今回の派遣活動の連携が迅速かつスムーズであった。
- ・ 県域市町村との派遣については、過去の被災地派遣の経験があったことや、「災害時保健師応援派遣マニュアル」に、「適宜、市町村保健師の派遣調整の検討を行う」と明記されていたため、調整がスムーズに進めることができた。
- ・ 派遣に関する物品を、kintone を使いプッシュ型で管理できた。
- ・ 健康増進課、保健福祉事務所・センターの研修で、被災地の支援活動を想定した研修等を行っており、平常時より災害に関する知識、技術、認識を高めていた。また、研修は顔の見える関係性の構築にも活かされた。
- ・ 保健師等派遣調整システムは、一斉に派遣依頼や回答ができる良さもあり、設置市の回答を県がとりまとめして入力する体制を作り上げることに繋がった。システムに記載内容の修正が一括で出来ないこと等のシステム上の不具合もある。
- ・ 派遣前オリエンテーションを複数回に分けて実施をすることで、派遣者全員と直接対面し、その時期の情報を伝達・共有することができた。
- ・ フォローアップミーティングは、派遣者のフォローや、活動の振り返りができた。

<課題>

- ・ ロジの事前登録リストがなく、選出が困難だった。
- ・ DHEAT と保健師等チームの派遣が同時期に重なると、人員の調整が困難であった。
- ・ 県・県都市町混合チームでは、県保健師はチームのリーダーを担ってもらった。派遣経験者が少なく、また中堅期以上の保健数も少ないためリーダーの選出が困難であった。また、チームによってはリーダーの負担が大きかった。今後の人材育成や県庁の後方支援は、引き続きの課題である。
- ・ ラピッドアセスメントの記録や、D24H が十分に活用できなかった。
- ・ 派遣者が、派遣直前や派遣中に発熱等の体調不良もあった。その際の連絡体制等は引き続き課題である。
- ・ 応援派遣延長要請に対して、応援派遣の情報だけでは延長可否の判断が難しかった。

(4) 総務室

<良かった点>

- ・ 派遣の準備や後方支援にあたっては、総務室の職員で業務を分担することにより、業務負担が集中することを避け、事故リスクを低減することができた。
- ・ 派遣調整の際にはオンライン会議を活用し、政令市・保健所設置市・市町村と方向性を適宜確認しながら進めることができた。
- ・ 派遣職員全員にLoGoチャットアカウントを配布したことで、現地と支援本部で円滑にやり取りを行うことができた。
- ・ 物品管理にkintoneを活用し、現地と総務室で在庫状況をリアルタイムで共有することで、適切なタイミングで物品の補充をすることができた。

<課題>

- ・ 総務室では保健師派遣の調整に加え、DHEATの派遣調整、派遣に係るサービスの整理、物資調達のほか、本来業務である局内業務の総務や人事にかかる事務を同時並行で対応することとなり、膨大な時間外業務が発生したほか、総務室の本来業務にも影響を及ぼしたことから、総務室で対応すべき業務の再整理や応援体制の見直しが必要である。
- ・ 災害派遣用の備蓄が全くなかったため、準備にかなりの時間と手間をかけることとなった。また、派遣にかかる調整や準備について、総務室で必要な対応の手順が明確化されていなかった。

- ・ 各所属長の連絡先を把握していなかったことから、初動対応の際に連絡の遅れが発生したため、事前に緊急時の連絡方法を決めておく必要があると感じた。
- ・ 保健師・ロジについては、DHEATでも派遣されることから、同時期に両チームが派遣される場合の人員の配分は今後の課題である。
- ・ 各自治体によって情報セキュリティのルールが異なる中で、PCの持ち出しができない市町村があった。また県のPCも情報セキュリティ上の理由でGoogle スプレッドシートの編集ができず、現地のPCを借りることがあった。

10 派遣後の取組み

(1) 県保健所設置市連絡会

ア 目的

令和6年能登半島地震派遣における神奈川県チームとしての派遣について振り返りを実施し、課題把握や今後の対応等の検討につなげる。

イ 日時・会場

令和6年7月22日（月）15時から17時 県庁会議室

ウ 出席者

（ア）県及び保健所政令市保健師 ※令和5年度に統括保健師、災害派遣調整であった保健師含む

（イ）健康医療局総務室 総務グループ担当者

エ 議題

（ア）令和6年能登半島地震における保健師等派遣について

（イ）その他

(2) 各保健福祉事務所・センター及び市町村の取組み（県及び市町村の地域統括保健師等のヒアリング結果）

ア 派遣活動の報告会等の実施状況

<保健福祉事務所・センター>

- ・ 所内部課長会で報告
- ・ 所内報告会を実施
- ・ 所内保健師業務連携連絡会議で報告
- ・ 地域保健師業務連絡会議で報告
- ・ 管内保健師研修で報告会を実施
- ・ 保健師自主勉強会で報告会を実施

<市町>

- ・ 市町村長への報告
- ・ 市町村幹部への報告・報告会の実施
- ・ 庁内保健師・栄養士連絡会で報告会を実施
- ・ 医師会災害対策講演で報告
- ・ 住民向けに報告会を実施
- ・ 報告書を作成
- ・ 広報誌へ派遣記事を掲載

イ 取組み（予定含む）

<保健福祉事務所・センター>

- ・ 「大規模災害時における県保健師活動マニュアル」に基づく「地域保健関連情報概況（市町村）」をヒアリングで実施
- ・ 要支援者のマップの作製
- ・ 災害用訪問バッグ点検
- ・ 保健師派遣要請等の具体的な流れについて、管内市町保健師と確認し様式やフローを整理
- ・ 災害マニュアルや、市町防災計画へ食の視点を入れ込む準備
- ・ 所内保健師連絡会で、所の災害時対応マニュアルの読み合わせを実施
- ・ 電源や必要物品の保管場所等を確認
- ・ 保健師研修で受援をテーマとし、避難所運営ゲーム（HUG）と、保健師派遣要請書の記載をする訓練を実施

<市町>

- ・ アクションカード作成
- ・ 災害時医療救護活動マニュアル改訂
- ・ 災害時受援計画整備
- ・ 要援護者管理システムについて再確認
- ・ 受援時の窓口担当者を検討
- ・ 受援時の館内使用レイアウトについて検討
- ・ 受援時の様式準備
- ・ 受援時のオリエンテーション資料作成
- ・ 業務及び地区担当の見直し
- ・ 自治会との顔つなぎのため、地区担当保健師が地区へ出向く
- ・ 支援活動に備え、妊婦の居住地区を調査
- ・ 発災時に被災状況を確認する医療機関と高齢者サービス提供事業所のリスト兼チェック表を作成
- ・ 地震想定避難訓練を実施

- ・ 災害対策関連の研修を実施
- ・ 保健師と消防本部、自治会等地域住民との関係性を構築
- ・ 災害時活動の使用物品の確認
- ・ 食物アレルギーや食事に配慮の必要な児童・生徒の情報を整理

11 活動写真







